



(様式例第11)

栃那病携第 50 号
令和 6年 10月 3日

栃木県知事 殿

住 所 東京都港区芝大門1-1-3

申請者

氏 名 日本赤十字社
社長 清家 篤



那須赤十字病院の地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
氏名	日本赤十字社 社長 清家 篤

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

那須赤十字病院

3 所在の場所

〒324-8686 栃木県大田原市中田原1081-4	電話 (0287) 23 - 1122
----------------------------	---------------------

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
0床	6床	0床	0床	454床	460床



5 施設の構造設備

施設名	設備概要			
集中治療室	(主な設備) 生体情報モニタ、人工呼吸器、人工透析装置・血液ガス測定装置、大動脈バルーンポンプ装置、心電計 病床数 8床			
化学検査室	(主な設備) 実験台、多項目自動分析装置、免疫測定装置			
細菌検査室	(主な設備) 実験台、安全キャビネット、全自動血液培養検査装置			
病理検査室	(主な設備) パラフインブロック冷却装置、凍結組織切断薄切装置			
病理解剖室	(主な設備) 解剖台・ホルマリン槽流し台、肉眼写真撮影装置			
研究室	(主な設備) 電カル用パソコン、インターネットの接続管理			
マイタウンホール	室数	1室	収容定員	250人
多目的ホール	室数	1室	収容人数	64人
図書室	室数	2室	蔵書数	34,250冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 酸素、吸引器、ストレッチャー 保有台数 1台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	26.76 m ²	

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(第12号様式) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院紹介率	89.7%	算定期間	R5年 4月 1日～ R6年 3月 31日
地域医療支援病院逆紹介率	86.5%		
算出根拠	A : 紹介患者の数		13,323人
	B : 初診患者の数		14,843人
	C : 逆紹介患者の数		12,850人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(第13号様式) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

NO.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考
1	医師	井上 晃男	常勤	週38時間45分	
2	医師	阿久津 郁夫	常勤	週38時間45分	
3	医師	佐藤 隆	常勤	週38時間45分	
4	医師	田村 光	常勤	週38時間45分	
5	医師	河本 俊介	常勤	週38時間45分	
6	医師	白石 悟	常勤	週38時間45分	
7	医師	福島 史哉	常勤	週38時間45分	
8	医師	伊藤 雅史	常勤	週38時間45分	
9	医師	景山 倫也	常勤	週38時間45分	
10	医師	小林 洋行	常勤	週38時間45分	
11	医師	池野 義彦	常勤	週38時間45分	
12	医師	大口 真寿	常勤	週38時間45分	
13	医師	吉田 徹	常勤	週38時間45分	
14	医師	岩松 浩一	常勤	週38時間45分	
15	医師	町田 安孝	常勤	週38時間45分	
16	医師	田宮 千知	常勤	週38時間45分	
17	医師	新井 由季	常勤	週38時間45分	
18	医師	小泉 諭	常勤	週38時間45分	
19	医師	田沼 大	常勤	週38時間45分	
20	医師	菱垣 裕里	常勤	週38時間45分	
21	医師	中田 洋介	常勤	週38時間45分	
22	医師	江部 敏生	常勤	週38時間45分	
23	医師	齋藤 史哉	常勤	週38時間45分	
24	医師	横山 はるか	常勤	週38時間45分	
25	医師	菊地 梓	常勤	週38時間45分	

26	医師	神賀 雄介	常勤	週38時間45分	
27	医師	古木 柊佳	常勤	週38時間45分	
28	医師	金井 理晃	常勤	週38時間45分	
29	医師	坂田 知久	常勤	週38時間45分	
30	医師	前橋 美歌	常勤	週38時間45分	
31	医師	安藤 雄基	常勤	週38時間45分	
32	医師	松村 悠香	常勤	週38時間45分	
33	医師	石井 純平	常勤	週38時間45分	
34	医師	小川 美織	常勤	週38時間45分	
35	医師	大村 翔平	常勤	週38時間45分	
36	医師	飯田 美穂	常勤	週38時間45分	
37	医師	石崎 郁絵	常勤	週38時間45分	
38	医師	竹田 圭恵	常勤	週38時間45分	
39	医師	谷口 有寿佳	常勤	週38時間45分	
40	医師	小島 正夫	常勤	週38時間45分	
41	医師	城戸 啓	常勤	週38時間45分	
42	医師	青木 真彦	常勤	週38時間45分	
43	医師	五十嵐 高広	常勤	週38時間45分	
44	医師	川口 英之	常勤	週38時間45分	
45	医師	石井 智	常勤	週38時間45分	
46	医師	寄森 駿	常勤	週38時間45分	
47	医師	梅津 英央	常勤	週38時間45分	
48	医師	菊地 陽	常勤	週38時間45分	
49	医師	酒井 麻未	常勤	週38時間45分	
50	医師	望月 彰浩	常勤	週38時間45分	
51	医師	竹内 大作	常勤	週38時間45分	
52	医師	吉川 勝久	常勤	週38時間45分	

53	医師	知場 一記	常勤	週38時間45分	
54	医師	新井 秀和	常勤	週38時間45分	
55	医師	小曾根 和毅	常勤	週38時間45分	
56	医師	宇梶 真生	常勤	週38時間45分	
57	医師	菊地 優貴	常勤	週38時間45分	
58	医師	深谷 春介	常勤	週38時間45分	
59	医師	奥貫 かなえ	常勤	週38時間45分	
60	医師	山田 延弘	常勤	週38時間45分	
61	医師	神原 常仁	常勤	週38時間45分	
62	医師	水野 智弥	常勤	週38時間45分	
63	医師	鈴木 一生	常勤	週38時間45分	
64	医師	水口 雄貴	常勤	週38時間45分	
65	医師	田中 恒成	常勤	週38時間45分	
66	医師	上野 聡一郎	常勤	週38時間45分	
67	医師	谷本 ひかり	常勤	週38時間45分	
68	医師	鈴木 幹崇	常勤	週38時間45分	
69	医師	酒井 瑞乃	常勤	週38時間45分	
70	医師	柿沼 宏幸	常勤	週38時間45分	
71	医師	田中 禎一	常勤	週38時間45分	
72	医師	萱嶋 香子	常勤	週38時間45分	
73	医師	景山 めぐみ	常勤	週28時間45分	
74	医師	住田 直樹	常勤	週38時間45分	
75	医師	林 堅二	常勤	週38時間45分	
76	医師	木多 秀彰	常勤	週38時間45分	
77	医師	宍戸 宏行	常勤	週38時間45分	
78	医師	鈴木 光子	常勤	週38時間45分	
79	医師	伊藤 弘人	常勤	週38時間45分	

80	医師	宮城 徳人	常勤	週38時間45分	
81	医師	青山 裕美	常勤	週38時間45分	
82	医師	齋藤 健太郎	常勤	週38時間45分	
83	医師	水沼 仁孝	常勤	週38時間45分	
84	医師	砂川 好光	常勤	週38時間45分	
85	医師	遠藤 夏実	常勤	週38時間45分	
86	医師	大森 修啓	常勤	週38時間45分	
87	医師	小手川 太郎	常勤	週38時間45分	
88	医師	日引 皐太郎	常勤	週38時間45分	
89	医師	藤田 素輝	常勤	週38時間45分	
90	医師	会田 真衣	常勤	週38時間45分	
91	医師	長瀬 怜	常勤	週38時間45分	
92	医師	平尾 親	常勤	週38時間45分	
93	医師	平本 京嗣	常勤	週38時間45分	
94	医師	吉田 茉樹	常勤	週38時間45分	
95	医師	青柳 正英	常勤	週38時間45分	
96	医師	野村 藍菜	非常勤	週38時間45分	
97	医師	松崎 翔大	非常勤	週38時間45分	
98	医師	金子 佑	非常勤	週38時間45分	
99	医師	有田 和旦	非常勤	週38時間45分	
100	医師	武藤 憲哉	非常勤	週38時間45分	
101	医師	車田 宏之	非常勤	週38時間45分	
102	医師	吉成 仁見	非常勤	週38時間45分	
103	医師	益子 仁	非常勤	週38時間45分	
104	医師	伊澤 祥光	非常勤	週38時間45分	
105	医師	福田 啓伸	非常勤	週38時間45分	
1	薬剤師	佐藤 学	常勤	週38時間45分	

2	薬剤師	金子 和生	常勤	週38時間45分	
3	薬剤師	内藤 裕之	常勤	週38時間45分	
4	薬剤師	村上 賢志	常勤	週38時間45分	
5	薬剤師	堀中 大輔	常勤	週38時間45分	
6	薬剤師	青木 正子	常勤	週38時間45分	
7	薬剤師	高野 尊行	常勤	週38時間45分	
8	薬剤師	田村 華恵	常勤	週38時間45分	
9	薬剤師	小祝 梓	常勤	週38時間45分	
10	薬剤師	倉井 岳史	常勤	週38時間45分	
11	薬剤師	倉井 由香	常勤	週38時間45分	
12	薬剤師	柿沼 貴広	常勤	週38時間45分	
13	薬剤師	船山 将栄	常勤	週38時間45分	
14	薬剤師	小川 結花	常勤	週38時間45分	
15	薬剤師	石橋 楽至	常勤	週38時間45分	
16	薬剤師	糸村 秀太	常勤	週38時間45分	
17	薬剤師	松本 宏美	常勤	週38時間45分	
18	薬剤師	後藤 加菜	常勤	週38時間45分	
19	薬剤師	赤羽 孝之	常勤	週38時間45分	
20	薬剤師	中谷 ありさ	常勤	週38時間45分	
21	薬剤師	塚田 光	常勤	週38時間45分	
22	薬剤師	中丸 諒	常勤	週38時間45分	
23	薬剤師	田中 葉子	常勤	週38時間45分	
1	放射線技師	佐藤 統幸	常勤	週38時間45分	
2	放射線技師	井戸沼 佳明	常勤	週38時間45分	
3	放射線技師	藤田 一美	常勤	週38時間45分	
4	放射線技師	郡司 康範	常勤	週38時間45分	
5	放射線技師	加藤 美和	常勤	週38時間45分	

6	放射線技師	諏佐 裕美	常勤	週38時間45分	
7	放射線技師	池田 幸弘	常勤	週38時間45分	
8	放射線技師	大木 敦史	常勤	週38時間45分	
9	放射線技師	増渕 裕介	常勤	週38時間45分	
10	放射線技師	大谷津 崇	常勤	週38時間45分	
11	放射線技師	石崎 充	常勤	週38時間45分	
12	放射線技師	鈴木 悠	常勤	週38時間45分	
13	放射線技師	磯 裕樹	常勤	週38時間45分	
14	放射線技師	石原 誠	常勤	週38時間45分	
15	放射線技師	阿部 直央	常勤	週38時間45分	
16	放射線技師	杉山 美咲	常勤	週38時間45分	
17	放射線技師	中澤 佑介	常勤	週38時間45分	
18	放射線技師	杉山 佳樹	常勤	週38時間45分	
19	放射線技師	青木 悠征	常勤	週38時間45分	
20	放射線技師	菅俣 祐太	常勤	週38時間45分	
21	放射線技師	関口 大陸	常勤	週38時間45分	
22	放射線技師	生駒 賢二郎	常勤	週38時間45分	
23	放射線技師	加藤 織紗子	常勤	週38時間45分	
1	臨床検査技師	田村 勝幸	常勤	週38時間45分	
2	臨床検査技師	薄井 啓一郎	常勤	週38時間45分	
3	臨床検査技師	益子 英樹	常勤	週38時間45分	
4	臨床検査技師	佐藤 美香	常勤	週38時間45分	
5	臨床検査技師	百瀬 薫	常勤	週38時間45分	
6	臨床検査技師	猪瀬 由紀子	常勤	週38時間45分	
7	臨床検査技師	薄井 千陽	常勤	週38時間45分	
8	臨床検査技師	黒崎 由美	常勤	週38時間45分	
9	臨床検査技師	菊地 真由美	常勤	週38時間45分	

10	臨床検査技師	酒井 正祥	常勤	週38時間45分	
11	臨床検査技師	佐藤 伴樹	常勤	週38時間45分	
12	臨床検査技師	加藤 昌利	常勤	週38時間45分	
13	臨床検査技師	坂本 香織	常勤	週33時間45分	育短
14	臨床検査技師	高橋 佳奈	常勤	週33時間45分	育短
15	臨床検査技師	押山 奈津子	常勤	週38時間45分	
16	臨床検査技師	坂和 実紅	常勤	週38時間45分	
17	臨床検査技師	秋元 眸	常勤	週38時間45分	
18	臨床検査技師	伊井 笙	常勤	週38時間45分	
19	臨床検査技師	奥澤 瑠香	常勤	週38時間45分	
20	臨床検査技師	後藤 雄磨	常勤	週38時間45分	
21	臨床検査技師	束原 麻友	常勤	週38時間45分	
22	臨床検査技師	上吉原 祥穂	常勤	週38時間45分	
23	臨床検査技師	鈴木 菜央	常勤	週38時間45分	
24	臨床検査技師	窪前 大希	常勤	週38時間45分	
25	臨床検査技師	佐藤 桃奈	常勤	週38時間45分	
1	臨床工学技士	室井 純一	常勤	週38時間45分	
2	臨床工学技士	十河 匡光	常勤	週38時間45分	
3	臨床工学技士	鈴木 長明	常勤	週38時間45分	
4	臨床工学技士	秋元 郁美	常勤	週38時間45分	
5	臨床工学技士	梶野 公亨	常勤	週38時間45分	
6	臨床工学技士	曾我 倫和	常勤	週38時間45分	
7	臨床工学技士	関戸 貴大	常勤	週38時間45分	
8	臨床工学技士	佐久間 皓平	常勤	週38時間45分	
9	臨床工学技士	岩崎 陸也	常勤	週38時間45分	
10	臨床工学技士	佐藤 遥樹	常勤	週38時間45分	
11	臨床工学技士	三浦 聖奈	常勤	週38時間45分	

12	臨床工学技士	草野 隆太	常勤	週38時間45分	
1	救急救命士	滝田 理梨	常勤	週38時間45分	
1	看護師	井上 文子	常勤	週38時間45分	
2	看護師	渡邊 信代	常勤	週38時間45分	
3	看護師	狩野 満里	常勤	週38時間45分	
4	看護師	高橋 才子	常勤	週38時間45分	
5	看護師	野澤 美枝子	常勤	週38時間45分	
6	看護師	吉成 美津子	常勤	週38時間45分	
7	看護師	戸村 さよ子	常勤	週38時間45分	
8	看護師	黒崎 頼子	常勤	週38時間45分	
9	看護師	加藤 久賀	常勤	週38時間45分	
10	看護師	福西 由貴子	常勤	週38時間45分	
11	看護師	人見 優子	常勤	週38時間45分	
12	看護師	森 由紀子	常勤	週38時間45分	
13	看護師	国広 真智子	常勤	週38時間45分	
14	看護師	星 麻美	常勤	週38時間45分	
15	看護師	高久 由美子	常勤	週38時間45分	
16	看護師	益子 みどり	常勤	週38時間45分	
17	看護師	井戸沼 由美子	常勤	週38時間45分	
18	看護師	高久 陽子	常勤	週38時間45分	
19	看護師	大竹 栄子	常勤	週38時間45分	
20	看護師	菅野 麗美	常勤	週38時間45分	
21	看護師	赤羽 智恵子	常勤	週38時間45分	
22	看護師	藤田 明美	常勤	週38時間45分	
23	看護師	田中 早苗	常勤	週38時間45分	
24	看護師	松本 綾子	常勤	週38時間45分	
25	看護師	津久井 はるみ	常勤	週38時間45分	

26	看護師	高橋 真由美	常勤	週38時間45分	
27	看護師	矢板 紀生	常勤	週38時間45分	
28	看護師	大井 利絵	常勤	週38時間45分	
29	看護師	木村 歩美	常勤	週33時間45分	育短
30	看護師	本多 陽一	常勤	週38時間45分	
31	看護師	阿部 真衣子	常勤	週38時間45分	
32	看護師	磯 由華利	常勤	週38時間45分	
33	看護師	平野 彩子	常勤	週38時間45分	
34	看護師	田積 未沙絵	常勤	週38時間45分	
35	看護師	樋口 美沙	常勤	週38時間45分	
36	看護師	平山 奈津美	常勤	週38時間45分	
37	看護師	新巻 崇史	常勤	週38時間45分	
38	看護師	伏見 愛子	常勤	週38時間45分	
39	看護師	秋元 正光	常勤	週38時間45分	
40	看護師	菊地 麻由美	常勤	週38時間45分	
41	看護師	鈴木 靖夫	常勤	週38時間45分	
42	看護師	村上 裕子	常勤	週38時間45分	
43	看護師	黒谷 真利子	常勤	週38時間45分	
44	看護師	佐藤 胡桃	常勤	週38時間45分	
45	看護師	小滝 史脩	常勤	週38時間45分	
46	看護師	槐 龍也	常勤	週38時間45分	
47	看護師	坂内 雄樹	常勤	週38時間45分	
48	看護師	阿久津 茜	常勤	週38時間45分	
49	看護師	野田 永寿美	常勤	週38時間45分	
50	看護師	森島 佳子	常勤	週38時間45分	
51	看護師	大場 千恵	常勤	週38時間45分	
52	看護師	秋元 香苗	常勤	週38時間45分	

53	看護師	佐藤 愛子	常勤	週38時間45分	
54	看護師	井澤 昌也	常勤	週38時間45分	
55	看護師	大柿 あかね	常勤	週38時間45分	
56	看護師	林 泰明	常勤	週38時間45分	
57	看護師	福田 彰	常勤	週38時間45分	
58	看護師	黒木 里美	常勤	週38時間45分	
59	看護師	関谷 杏奈	常勤	週38時間45分	
60	看護師	三ツ木 結津葉	常勤	週38時間45分	
61	看護師	戸村 麻衣子	常勤	週38時間45分	
62	看護師	井澤 麗緒奈	常勤	週38時間45分	
63	看護師	井上 栞苗	常勤	週38時間45分	
64	看護師	佐々木 美咲	常勤	週38時間45分	
65	看護師	小貫 真哉	常勤	週38時間45分	
66	看護師	木下 大介	常勤	週38時間45分	
67	看護師	諏合 奈津美	常勤	週38時間45分	
68	看護師	佐久間 美渚	常勤	週38時間45分	
69	看護師	江連 あいり	常勤	週31時間15分	育短
70	看護師	古野 彩花	常勤	週38時間45分	
71	看護師	齋藤 菜々子	常勤	週38時間45分	
72	看護師	金子 麻里恵	常勤	週38時間45分	
73	看護師	和地 穂華	常勤	週38時間45分	
74	看護師	上野 友哉	常勤	週38時間45分	
75	看護師	矢古宇 萌花	常勤	週38時間45分	
76	看護師	東田 優香	常勤	週38時間45分	
77	看護師	酒井 利津子	常勤	週38時間45分	
78	看護師	藤田 真悠	常勤	週38時間45分	
79	看護師	松田 聖彰	常勤	週38時間45分	

80	看護師	大塚 日夏莉	常勤	週38時間45分	
81	看護師	眞田 笑吾	常勤	週38時間45分	
82	看護師	眞田 美波	常勤	週38時間45分	
83	看護師	田沢 美久	常勤	週38時間45分	
84	看護師	三田 美和子	非常勤	週31時間15分	パート
85	看護師	吉田 貴紀	常勤	週38時間45分	
86	看護師	君嶋 青空	常勤	週38時間45分	
87	看護師	小池 宏志	常勤	週38時間45分	
88	看護師	橋本 凜	常勤	週38時間45分	
89	看護師	早坂 祐奈	常勤	週38時間45分	
90	看護師	平山 友祐	常勤	週38時間45分	
91	看護師	小池 綾香	常勤	週38時間45分	
92	看護師	渡邊 麗奈	常勤	週38時間45分	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	22床
専用病床	19床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救命救急センター	466.86㎡	(主な設備) 脳波形 高周波ジェットベンチレーター 全身用高度CTスキャナ 体温自動冷却加温装置 誘発電位検査装置 大動脈バルーンポンプ装置 コードレス移動型X線装置 持続的血液ろ過透析装置 代謝モニター 手術用顕微鏡 デジタルシネ装置 pEEGモニター 連続心拍出量測定装置 自己血回収装置 パノミックX線撮影装置 全自動免疫化学分析装置 全自動PH血液ガス分析装置 多科用ラパロスコープシステム 人工呼吸器 搬送用人工呼吸器 セントラルモニターシステム 移動用無菌装置 ホリケラフ 電子内視鏡システム シャワー殺菌水装置 頭蓋内測定装置 パーサパルスヤグレーザー 非侵襲脳内酸素飽和度監視装置 膜型血漿交換用装置 輸血用血液専用放射線照射装置 ICU診療情報システム 補助循環遠心型血液ポンプ 超音波診断装置 デジタル脳波計 MRI 除細動器 他	可

4 備考

平成10年5月15日付医厚第145号にて救命救急センター指定

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	3,823人 (2,499人)
上記以外の救急患者の数	6,385人 (2,651人)
合計	10,208人 (5,150人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(第14号様式) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制が整備されていることを証する書類

1 共同利用の実績

コンピューター断層撮影 (CT)	1,322件
磁気共鳴コンピューター断層撮影 (MRI)	1,309件
超音波検査 (乳腺、甲状腺、腹部エコー)	39件
ラジオアイソトープ (RI検査)	8件
IVR (血管造影検査)	0件
共同利用を行った医療機関数	56件
共同利用を行った医療機関延べ数	2,678件
(開設者と直接関係ない医療機関延べ数	2,678件、病床利用率 0%)
病床利用	0件

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

コンピューター断層撮影 (CT)
磁気共鳴コンピューター断層撮影 (MRI)
超音波検査 (乳腺、甲状腺、腹部エコー)
ラジオアイソトープ (RI検査)
IVR (血管造影検査)
図書室
受託検査 (施設及び事業所)
マイタウンホール
多目的ホール
会議室
開放型病床

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

- ア 共同利用に関する規定の有無 有 無
- イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名: 水沼 仁孝
職種: 医師 (放射線診断科部長)

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

処 務 規 程

那須赤十字病院

令和 5年 4月 1日

- ツ 薬物その他の科学的試験及び分析に関すること。
- テ 注射剤調剤及び混合調剤に関すること。
- ト I V Hの混合調剤に関すること。
- ナ 抗悪性腫瘍剤の混合調剤に関すること。
- ニ 特定生物由来製品に関すること。
- ヌ 酸素、笑気ガス等の管理に関すること。
- (2) 病棟薬剤課
 - ア 薬剤管理指導に関すること。
 - イ 注射薬の配合変化に関すること。
 - ウ 薬物血中濃度に関すること。
 - エ 持参薬に関すること。
 - オ 配薬カートに関すること。
 - カ 病棟在庫薬管理に関すること。
 - キ 緩和医療に関すること。
 - ケ 医療チームに関すること。
- (3) 薬品管理課
 - ア 医療薬品の安全管理に関すること。
 - イ 麻薬の管理及び指導に関すること。
 - ウ 向精神薬の管理及び指導に関すること。
 - エ 毒薬の管理及び指導に関すること。
 - オ 医薬品の在庫に関すること。
 - カ 院内での薬品の適正使用及び指導に関すること。
 - キ 医薬品情報に関すること。
 - ク 薬事委員会に関すること。

第9条 検査部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 臨床検査課
 - ア 臨床検査に関すること。
 - イ 一般検査に関すること。
 - ウ 血液学的検査に関すること。
 - エ 生化学的検査に関すること。
 - オ 免疫血清学的検査に関すること。
 - カ 採血に関すること。
 - キ その他、臨床検査に関すること。
- (2) 病理検査課
 - ア 細菌学的検査に関すること。
 - イ 院内感染対策に関すること。
 - ウ 輸血学的検査に関すること。
 - エ 輸血用血液製剤の管理に関すること。
 - オ 病理組織学的検査に関すること。
 - カ 細胞診検査に関すること。
 - キ 病理解剖及び検体処理に関すること。
 - ク 病理標本の管理・保管に関すること。
 - ケ その他、病理検査に関すること。
- (3) 生体検査課
 - カ 生理学的検査に関すること。
 - ク I V Fに関すること。
 - ク その他、臨床検査に関すること。

第10条 医療技術部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 栄養課
 - ア 患者食の献立作成及び発注に関すること。
 - イ 特別食の調理及び患者の嗜好調査に関すること。
 - ウ 残飯等衛生管理に関すること。
 - エ 食料資材の出納保管に関すること。
 - オ 栄養委員会に関すること。
 - カ 患者の転入出にともなう食数管理に関すること。
 - キ 調理室、食器類の管理及び清潔保持に関すること。
 - ク 給食材料の検収に関すること。
 - ケ 患者の栄養相談及び指導に関すること。
 - コ 検食及び保存食に関すること。
 - サ その他、給食に関すること。
- (2) 臨床工学技術課
 - ア 医療機器の管理に関すること。

- イ 医療機器の日常の保守点検及び定期点検に関する事。
 - ウ 医療機器の操作、監視に関する事。
 - エ 医療機器の専門的知識及び技術指導に関する事。
 - オ その他、医療機器の運用全般に関する事。
- (3) 臨床心理課
- ア 患者心理への介入（カウンセリング）に関する事。
 - イ 心理・精神的問題を有する患者への受診援助に関する事。
 - ウ 医療スタッフへ対するメンタルサポート及び教育に関する事。
 - エ 緩和医療に関する事。
 - オ 前各号のほか、心理に関する事。

第11条 看護部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 患者の看護、新生児の介補及び診療の介助に関する事。
- (2) 看護職員の配置、勤務交代等看護体制に関する事。
- (3) 看護基準及び看護手順に関する事。
- (4) 看護技術の指導、調査、研究及び改善に関する事。
- (5) 患者の食事の世話に関する事。
- (6) 病棟、手術室、分娩室、人工透析室及び中央材料室の管理に関する事。
- (7) 看護日誌その他看護に関する諸記録に関する事。
- (8) 看護用具の研究及び改善に関する事。
- (9) 看護職員の教育に関する事。
- (10) 託児所、休養室及び更衣室の管理に関する事。
- (11) 看護学生の実習指導に関する事。
- (12) 前各号のほか、看護に関する事。

第12条 医療社会事業部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 医療福祉連携課（患者サポートセンター）
 - ア 医療ソーシャルワークの対象者の調査及び発見に関する事。
 - イ 医療をはじめ、医療スタッフ等の連絡及び関係資料の提供に関する事。
 - ウ 患者の診療及び療養生活の適応に必要なソーシャルワーク業務に関する事。
 - エ 患者の家族に対するソーシャルワーク業務及び家庭訪問に関する事。
 - オ 患者の退院の社会復帰に伴うソーシャルワーク業務及び訪問活動に関する事。
 - カ 在宅ケア・デイケアに関するソーシャルワーク業務に関する事。
 - キ 公的扶助等社会福祉関係法の利用の援助に関する事。
 - ク 診療費の減免、その他法外援助の実施に関する事。
 - ケ 社会福祉事務所その他関係機関及び団体との連絡調整に関する事。
 - コ 献体事務に関する事。
 - サ その他、医療ソーシャルワークに関する事。
 - シ がん対策推進業務に関する事。
 - ス がん相談業務に関する事。
 - セ 電話相談業務に関する事。
 - ソ 来院者の健康相談業務に関する事。
 - タ 窓口での受診科相談業務に関する事。
 - チ 入院患者及び入院予定患者の相談業務に関する事。
 - ツ 退院患者及び退院予定患者の相談業務に関する事。
 - テ 救命救急センターの受付及び事務に関する事。
 - ト その他入退院患者の支援に関する事。
- (2) 社会課
 - ア 災害時等における医療救護の計画及び実施に関する事。
 - イ 巡回診療・出張診療及び医療相談に関する事。
 - ウ 老人保健法に基づく保健事業の協力に関する事。
 - エ 訪問看護、継続看護、老人デイケア等の実施に関する事。
 - オ 事業の推進にともなう支部との連絡調整に関する事。
 - カ 国及び地方自治体が行う衛生思想の普及向上のための社会的行事への協力に関する事。
 - キ 募金に関する事。
 - ク ボランティアの受入れ等奉仕活動の指導、協力及び連絡調整に関する事。
 - ケ 救命救急センターの受付及び事務に関する事。
 - コ その他の一般住民及び患者へのサービスに関する事。

第13条 健診部においては、次の業務を分掌する。

- (1) 健診課
 - ア 地域、事業所、その他団体等一般を対象にして行う集団健診、成人健診及び健康相談に関する事。

画像診断機器運用規定（院外依頼）

【運用機器範囲】

・CT ・MRI ・RI ・超音波 ・IVR

【運用時間】

日曜祝祭日、第2・第4・第5土曜日を除く毎日

9：00－10：30

13：30－16：00 （但し、土曜日は9：00－11：00）

予約受付は、平日8：30－16：45 第1・3土曜日は、8：30－12：30

電話：0287-23-9777（地域医療連携室）

【運用時のお願い】

- 緊急時を含め、電話又はFAXにより「地域医療連携室」にて事前予約をお願いします。
- 当日来院時、放射線科あてに「診療情報提供書」を発行し持参頂きますようお願いいたします。
- 造影剤使用の可能性については事前に依頼診療所・病院から説明頂き、患者さんの来院時に造影剤の説明とチェックリストのチェックを当院担当者が行ないます。造影剤のアレルギー情報等あれば事前に情報提供をお願いします。
- 患者さんは当院放射線科専門医の問診を受けて頂きます。
- 撮影後はフィルム又はCD-Rを患者さんにお渡しし、依頼診療所・病院に持参して頂きます。
- 画像診断の結果は、原則当日FAXにて依頼元診療所・病院に送信させていただきます。
- 患者さんへの説明は、依頼元診療所・病院にてお願いします。
- 帰宅後の造影剤アレルギー反応の出現時は、原則的に依頼元診療所・病院にてお願いします。対応不可の場合には、当院にご連絡願います。
- 画像診断により、緊急的に治療の必要性が認められた場合には、当院にて治療を開始する旨を当院放射線科担当医師より依頼元診療所・病院に報告させていただきます。

院外依頼画像診断手順

1、依頼診療所・病院 → 連携室に TEL (0287-23-9777) (下記①②③)

- ① 依頼検査項目および部位をお伝えください。
CT・MRI・シンチ・エコー・マンモグラフィー・冠動脈 CTA など
- ② 患者氏名・生年月日・電話番号など基礎情報をお伝えください。
・シンチグラムは、目的により曜日の指定あり
* 他の項目については連携室にて確認調整を行ないます。
- ③ 希望日（時間調整は、予約状況に応じて対応）をお伝えください。

2、連携室 → 依頼診療所・病院に FAX (下記④⑤)

- ④ 検査予約票
- ⑤ 患者情報記入用紙

3、依頼診療所・病院 → 連携室に FAX (0287-23-9991)

- ⑤に必要事項を記入し、患者さんの同意を得て FAX 願います。
* 事前に⑤の情報にてカルテを準備し速やかに検査にご案内します。

4、予約当日患者来院 2 番カウンターにて受付 → オリエンテーション後、放射線科へご案内、検査実施

依頼診療所・病院からの診療情報提供書を確認し、患者氏名・依頼元・検査内容を照合します。

- ⑥「造影剤使用に関する質問項目」を確認
* オリエンテーション内容（検査実施の流れおよび造影剤使用に関する注意事項など）

5、検査終了後、フィルム又は CD-R を患者さんにお渡しし、次回診察時持参することを説明します

6、那須日赤放射線科 → 依頼診療所・病院に FAX (下記⑦)

撮影が終了次第放射線科診断部にて読影、画像診断を行ないます。

- ⑦画像診断結果作成
- ⑧画像データ（フィルム・CD-R）は、依頼元データとして患者さんが依頼診療所・病院に持参します。

7、依頼診療所・病院にて患者診察時画像診断の結果を説明願います

那須赤十字病院開放型病床運営規程

第1条（目的）

この規程は、那須赤十字病院（以下「病院」という。）内に開放型病床を設置し、病院担当医師（以下「主治医」という。）と地域の医師または歯科医師が互いの情報を共有することにより、患者に対する確かな医療ならびに地域完結型医療を提供することを目的とする。

第2条（開放型病床の設置）

病院は、一般病床の中から5床を開放型病床として設置する。

- 2 毎朝8時30分に5床を確保する。

第3条（利用について）

地域の医師または歯科医師が、病院の地域医療福祉連携課に電話にて申し込む。

- 2 申し込みは平日の8時30分から17時30分までとする。

（第2・第4・第5土曜日、祝祭日、7月1日、12月29日から1月3日を除く）

第4条（診療）

地域の医師または歯科医師は、患者の診療等を主治医と共同で行うものとする。

- 2 患者の退院決定についても共同で行うものとする。
- 3 地域の医師または歯科医師が共同診療を行う場合は、あらかじめ主治医との日程調整を行わなければならない。

第5条（診療責任）

開放型病床に入院中の患者の管理は、病院の責任において行うものとする。

第6条（その他）

この規定の運営ならびに改定については、那須赤十字病院地域医療支援連絡会にて協議を行うものとする。

付則 この規定は平成24年7月1日より実施する。

平成26年3月1日 一部改定「開庁日追加」 第3条2項「第5土曜日を追加」

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名
青柳医院	青柳 直大	大田原市中央2-1-2	内、小、皮、泌
赤羽医院	赤羽 正史	大田原市城山2-5-29	内、小、外、整外、皮、泌、肛
あさかクリニック	若江 恵利子	大田原市浅香3-3711	内、小、外、整外
阿部内科	阿部 好一郎	大田原市佐久山2018	内、消、循、小、皮
せいいかいメディカルクリニックNASU	菅生 太朗	大田原市町島200-8	内、循内、他
磯医院	磯 政裕	大田原市黒羽向町8	内、消、胃、外、小
井上眼科医院	井上 直紀	大田原市山の手1-2-11	眼
江部医院	江部 寛	大田原市黒羽向町60	内、神内、消、循、小、リハ
大田原中央クリニック	八代 忍	大田原市中央1-3-15	整外、漢内、リハ
介護老人保健施設 椿寿荘	石倉 義彌	大田原市末広1-2-5	
鎌田浅香医院	鎌田 美樹雄	大田原市浅香3-3578	内、消内、循内、小、皮、神内
河島クリニック	河島 俊文	大田原市中央2-9-32	内、消内、外、肛、
木戸内科クリニック	木戸 幸一	大田原市美原2-2831-153	内、小
ときながメンタルクリニック	時永 昇	大田原市美原2-3196-52	精神、心内
車田医院	車田 宏之	大田原市大豆田457-24	内、小
くろばね齋藤醫院	齋藤 暁美	大田原市黒羽田町612	内、循、小
国際医療福祉大学クリニック	前田 眞治	大田原市北金丸2600-6	内、精、整外、耳、リハ、歯、小歯、歯口
小林内科外科医院	小林 伸久	大田原市富士見1-16	内、耳、消内、他
齊藤内科医院	齊藤 大幹	大田原市新富町3-4-18	内、呼内、循内、消内、腎内、外、泌内、他
だいなリハビリクリニック	近藤 健	大田原市紫塚3-2633-10	内、整外、リハ、形外
高久内科医院	高久 多希朗	大田原市中田原773-8	内、呼内
なすのがはらクリニック	高橋 貞夫	大田原市滝沢355	内、消、ア、小
高橋外科医院	高橋 敏	大田原市住吉町1-11-20	内、外、整外、呼内、循内、胃内、肛外、泌、漢内、性内、ア
高山クリニック	高山 五郎	大田原市本町1-2703-182	形外、皮

那須中央病院	吉川 一郎	大田原市下石上1453	内、神内、呼内、消内、循内、血、ア、リ、小、外、整外、形外、脳外、呼外、消外、乳、肛皮、リハ、麻、齒、矯齒、齒口他
なす療育園	下泉 秀夫	大田原市北金丸2600-7	内、小、整外、リハ、齒、他
野崎皮膚科	野崎 重之	大田原市末広3-3004-2	皮
橋本内科クリニック	橋本 憲一	大田原市元町1-2-14	内、呼、小
原眼科医院	原 裕	大田原市末広1-5-27	眼
藤田医院	藤田 茂信	大田原市野崎2-7-14	内、胃、外、肛
益子医院	十河 寛	大田原市大久保266	内、呼、胃、循
益子クリニック	益子 仁	大田原市黒羽田町827	内、呼
増山医院（小滝）	増山 茂樹	大田原市小滝1107-6	内、ア、小、外
増山医院（佐良土）	増山 伸夫	大田原市佐良土861	内、循、ア、小、皮
増山胃腸科クリニック	増山 仁徳	大田原市加治屋83-413	内、消
松井医院	松井 秀雄	大田原市城山1-2-3	内、消
室井病院	室井 秀太	大田原市末広1-2-5	内、精、心内、消内、循内
吉成小児科	吉成 仁見	大田原市新富町2-1-22	小
阿久津整形外科	阿久津 政司	那須塩原市永田町3-16	内、リ、外、整外、リハ
石塚産婦人科	郡山 智	那須塩原市三島2-14-9	産婦
いしばし眼科	石橋 生朗	那須塩原市睦146-12	眼
大島内科小児科医院	大島 健一	那須塩原市錦町4-20	内、呼、消、循、小、皮
大原クリニック	大原 栄	那須塩原市東三島3-67	内、小、眼、耳
尾形クリニック那須	米田 尚弘	那須塩原市沓掛2-10-3	内 他
ムラキクリニック	村木 淳郎	那須塩原市沓掛3-8-25	内、泌、外
金澤医院	金澤 正邦	那須塩原市中央町1-8	内、消、循、小
菅間記念病院	竹内 丙午	那須塩原市大黒町2-5	内、神内、呼内、消内、循内外、整外、脳外、小、皮、泌、性、肛、婦、耳、リハ、放、麻齒、小齒、齒口、他
きくち内科クリニック	菊地 紀明	那須塩原市下田町531-130	内
黒磯病院	小林 進	那須塩原市高砂町3-5	内、胃、小、外、整外、肛

国際医療福祉大学病院	鈴木 裕	那須塩原市井口537-3	内、心内、精、神内、呼内、消内、循内、ア膠、糖、腎、小、整外、形外、脳外、呼外、消外、循外、美外、乳、皮、肛、泌、産婦、眼、耳、リハ、放、麻、歯口、心外、他
小関整形外科	小関 邦彦	那須塩原市扇町12-12	整外、リハ
小沼内科胃腸科クリニック	小沼 宏徳	那須塩原市西朝日町6-42	内、胃、小
さいとうクリニック	齋藤 茂子	那須塩原市西幸町7-13	内、小、麻
佐藤医院	佐藤 嗣人	那須塩原市西栄町7-16	内、小、皮
高澤クリニック	高澤 泉	那須塩原市緑1-8-472	内、外、肛、他
滝田メディカルクリニック	滝田 雅仁	那須塩原市本町9-26	内、胃、外、皮、泌、肛
栃木県医師会塩原温泉病院	森山 俊男	那須塩原市塩原1333	内、神内、リ、整外、リハ、他
那須あいクリニック	久光 愛	那須塩原市沓掛3-12-2	整
那須高原クリニック	佐藤 英智	那須塩原市唐杉31-2	内、呼、ア、リ、小、整外
那須こころの医院	石川 純一	那須塩原市方京1-16-2	心内、精
なすこどもクリニック	福田 啓伸	那須塩原市沓掛2-19-1	小、ア
那須北病院	橋本 雅章	那須塩原市野間453-14	内、神内、循内、脳外、リハ、放
なすのクリニック	渡邊 敏郎	那須塩原市共墾社83-24	内、糖内、消内、循内、整外、リハ
那須訪問診療所	田中 泰道	那須塩原市豊浦10-706	訪
西那須野内科循環器科クリニック	鈴木 明裕	那須塩原市永田町7-13	内、呼、循
はらくクリニック	原 孝志	那須塩原市東三島4-54-7	内、胃、外
福島整形外科病院	福島 稔	那須塩原市弥生町1-10	整外、リハ
ふくだ内科クリニック	福田 裕昭	那須塩原市新町115-3	内、消内
ふじおか内科小児科	藤岡 隆庸	那須塩原市豊浦93-15	内、小
藤田産婦人科医院	藤田 健一	那須塩原市宮町5-19	内、外、産婦人
ぼっぼクリニック	赤羽 磨行	須塩原市石林666-10	内、外
ふみの耳鼻咽喉科クリニック	田沼 文	那須塩原市沓掛1-11-5	耳
ブリヂストン栃木診療所	山本 栄二	那須塩原市上中野10	内、泌
みずぬまクリニック	水沼 裕光	那須塩原市東三島2-80-6	内、呼、循、小

みどりクリニック	橋本 俊久	那須塩原市一区町160-1	内、呼、消、胃、循、小、外、 整外、皮、泌、眼、耳、リハ、 放、麻
緑の杜クリニック	木平 健	那須塩原市大原間西1-6-7	内、消、ア、皮
三森医院	三森 薫	那須塩原市宮町1-19	内、呼、胃、循、小、外、皮、 放
宗形医院	宗形 光敏	那須塩原市弥生町9-16	内、小
渡部医院	渡部 伊織	那須塩原市大原間140-1	内、呼、消、循、小、皮、泌 性、放
塩田医院	塩田 章人	那須町寺子丙1-14	内、呼、消、胃、循、皮泌
田崎医院	田崎 洋太郎	那須町寺子丙1	内、消内、循内、小、外、皮 泌、産婦
立花医院	立花 隆司	那須町寺子乙3967-190	内、消、小
あしのメディカルクリニック	塚原 純雄	那須町寺子丙1-397	内、外、整外、皮、放、麻
那須高原病院	高野 謙二	那須町高久甲375	内、精、神、神内、呼、循、皮
見川医院	見川 泰岳	那須町湯本212	内、心内、精、神、小
もみの木医院	川口 幸夫	那須町高久丙1195-701	内、消、循、ア、小、皮、放
上田医院	上田 明彦	矢板市末広町32-2	内、消、循、整外、リハ
尾形クリニック	尾形 享一	矢板市末広町45-3	内、呼、消、循、外、整外、泌 リハ、放
かるべ皮フ科小児科医院	軽部 敏昭	矢板市木幡1324	小、皮
きうち産婦人科医院	山田 哲夫	矢板市富田548-1	産婦
国際医療福祉大学塩谷病院	佐藤 敦久	矢板市富田77	内、神内、呼内、消内、循内、 血、小、外、整外、脳外、消外
後藤医院	後藤 哲郎	矢板市末広町63-9	内、小
佐藤病院	佐藤 勇人	矢板市土屋18	内、精、皮
西川整形外科	西川 晋介	矢板市乙畑1453-3	神、リ、外、整外、リハ
橋本医院	橋本 敬	矢板市泉377-5	内、消内
村井医院	村井 信之	矢板市扇町1-10-28	ア、耳、気、リハ
村井胃腸科外科クリニック	村井 成之	矢板市木幡1308-20	内、消内、循内、外、整外、消 外、小外、皮、泌、肛、耳、気 外、リハ、放、他
矢板南病院	塚本 俊彦	矢板市乙畑1735-9	内、外、皮、麻、整外、他
谷仲医院	谷仲 昭夫	矢板市片岡2096-84	内、小、外、皮、産、放
山田クリニック	山田 聡	矢板市片岡2146-3	内、胃、小

氏家病院	松村 茂	さくら市向河原4095	内、精、神、消、麻、齒
岡医院	岡 一雄	さくら市桜野9280-8	内、小、循
かとう眼科	加藤 健	さくら市氏家2565-9	眼
黒須病院	手塚 幹雄	さくら市氏家2650	内、神内、呼、消、胃、循、外 整外、脳外、呼外、小、皮、泌 りハ、放、麻
小林医院	小林 正樹	さくら市喜連川4347-2	内、呼、消、循、小
さくら産院	泉 章夫	さくら市氏家2190-5	内、婦、産
佐藤クリニック	佐藤 泉	さくら市卯の里1-17-1	内
佐野医院	佐野 哲郎	さくら市喜連川4413	内、呼、消、小、外、整外
高瀬小児科医院	仲澤 博子	さくら市氏家1916	内、小、皮
仲嶋医院	仲嶋 秀文	さくら市氏家3245-17	内、消、循、小
にし内科ハートクリニック	西 悠	さくら市氏家3390-5	内、循
花塚クリニック	花塚 和伸	さくら市喜連川841-1	内、消内、他
檜山医院	檜山 清水	さくら市桜野1220	内、小、皮
おのこどもクリニック	小野 三佳	さくら市狭間田1923-1	小
桜ヶ丘内科・呼吸器科クリニック	桂 秀樹	さくら市桜ヶ丘3-1-1	呼内
阿久津クリニック	阿久津 昌子	那須烏山市金井2-1-6	内、消、外、整外、皮
近藤クリニック	近藤 克昭	那須烏山市野上637-2	内、呼、消、循、小
塩谷医院	塩谷 眞悦	那須烏山市田野倉183	内、外
那須南病院	宮澤 保春	那須烏山市中央3-2-13	内、神内、循内、小、胃、循外 整外、脳外、呼外、小
那須烏山市熊田診療所	有我 直宏	那須烏山市熊田555	内、外
那須烏山市国民健康保険七合診療所	本間 真二郎	那須烏山市中山137	内、小
烏山台病院	杉浦 啓太	那須烏山市滝田	内、精、神、循
水沼医院	水沼 洋文	那須烏山市金井1-14-8	内、消、小、外、整外、皮
山野クリニック	山野 和成	那須烏山市中央2-4-3	内、神内、循
大和田内科	大和田 信雄	塩谷町道下807-1	内、循内、心内、糖内、代内、 内分内
風見診療所	小島 崇	塩谷町上平27	内、小、外
阿久津医院	阿久津 博美	高根沢町大谷176-1	内、消内、循内、小、外
小林内科医院	小林 祐一郎	高根沢町宝積寺2261-23	内、呼、消、循、小

谷口医院	谷口 雄一	高根沢町宝積寺1038	内、心内、精、小、皮、美皮、産婦
中津川循環器内科クリニック	中津川 昌利	高根沢町宝積寺2388-5	内、呼、循、ア、小
深澤クリニック	深澤 孝夫	高根沢町平田1920-1	内、心内、神、循、ア、リ、小 整外、皮、麻、他
まなか医院	廣木 昭彦	高根沢町石末2093-10	内、ア、リ、小、外、整外、皮 リハ
高根沢中央病院	青木 洋	高根沢町光陽台3-16-1	内、呼、消、胃、循、ア、外、 整外、呼外、皮、肛、リハ、放
飯塚医院	木村 透	那珂川町馬頭484-3	内、皮、小
上野医院	上野 顕	那珂川町小川700	内、胃、循、小
坂本クリニック	坂本 修一	那珂川町北向田187	内、外、皮、泌
佐藤医院	佐藤 充	那珂川町小川2960-1	内、小
白寄医院	杉本 美幸	那珂川町馬頭464-1	内、外
高野病院	高野 和彦	那珂川町馬頭2068	内、神内、小、外、整外、皮、 眼、耳、リハ、放
石川歯科医院	石川 俊一郎	那須烏山市金井1-8-4	歯、矯歯、小歯、歯口

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

(第15号様式) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙参照

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	23回
(2) (1) の合計研修者数	720人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有・無
- イ 研修委員会設置の有無 有・無
- ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
井上 晃男	医師	内科	病院長	42年	
白石 悟	医師	産婦人科	統括顧問	44年	
阿久津 郁夫	医師	内科	副院長	40年	教育責任者
佐藤 隆	医師	内科	副院長	37年	
田村 光	医師	外科	副院長	35年	
河本 俊介	医師	脳神経外科	副院長	37年	
福島 史哉	医師	内科	第二内科部長	26年	
池野 義彦	医師	内科	リウマチ科部長	25年	

伊藤 雅史	医師	内科	脳神経内科部長	26年	
小林 洋行	医師	内科	血液内科部長	20年	
景山 倫也	医師	内科	循環器内科部長	19年	
大口 真寿	医師	内科	腎臓内科部長	31年	
吉田 徹	医師	内科	第一内科副部長	23年	
小泉 諭	医師	内科	循環器内科副部長	15年	
岩松 浩一	医師	内科	第二内科副部長	12年	
町田 安孝	医師	内科	第三内科副部長	15年	
田宮 千知	医師	内科	呼吸器内科副部長	19年	
新井 由季	医師	内科	消化器内科副部長	21年	
田沼 大	医師	内科	糖尿病・内分泌内科副部長	7年	
石井 純平	医師	小児科	第一小児科部長	13年	
小川 美織	医師	小児科	第一小児科副部長	12年	
小島 正夫	医師	外科	手術部長	47年	
城戸 啓	医師	外科	第三外科部長	25年	
青木 真彦	医師	外科	第四外科部長	25年	
五十嵐 高広	医師	外科	第五外科部長	20年	
川口 英之	医師	外科	第一外科副部長	15年	
石井 智	医師	外科	第二外科副部長	16年	
吉田 祐文	医師	リハビリテーション科	リハビリテーション科部長	35年	
菊地 陽	医師	形成外科	形成外科副部長	7年	
竹内 大作	医師	整形外科	整形外科部長	25年	
吉川 勝久	医師	整形外科	関節外科部長	20年	
深谷 春介	医師	脳神経外科	第二脳神経外科部長	17年	
奥貫 かなえ	医師	脳神経外科	第三脳神経外科部長	22年	
神原 常仁	医師	泌尿器科	第一泌尿器科部長	25年	
水野 智弥	医師	泌尿器科	第二泌尿器科部長	23年	
水口 雄貴	医師	産婦人科	第二産婦人科部長	16年	
田中 恒成	医師	産婦人科	第三産婦人科部長	11年	
柿沼 宏幸	医師	麻酔科	第一麻酔科部長	27年	
田中 禎一	医師	麻酔科	第二麻酔科部長	32年	
長谷川 伸之	医師	検査部	検査部長	38年	
梅津 英央	医師	呼吸器外科	第二呼吸器外科部長	28年	
酒井 瑞乃	医師	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科部長	17年	
林 堅二	医師	救急科	救命救急センター長	26年	

木多 秀彰	医師	救急科	救急集中治療部長	38年	
水沼 仁孝	医師	放射線科	放射線科診断科部長	44年	
砂川 好光	医師	放射線科	放射線治療科部長	36年	
伊藤 弘人	医師	歯科口腔外科	歯科口腔外科部長	31年	
宮城 徳人	医師	歯科口腔外科	第二歯科口腔外科部長	23年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

1.研修の内容（別紙）

開催日時	研修項目	題名	講師	院外参加
令和5年4月19日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和5年5月10日	特別講演会	地域医療としてのがんの遺伝医療	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 腫瘍制御学講座 (臨床遺伝子医療学分野) 教授 平沢 晃 先生	7
令和5年5月17日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	8
令和5年6月16日	栃木県北糖尿病・循環器懇話会	循環器内科医の糖尿病治療戦略 糖尿病と心腎関連	循環器内科部長 景山 倫也 佐賀大学医学部 野出 孝一 先生	35
令和5年6月21日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和5年7月19日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和5年7月31日	第6回県北医療圏緩和ケア地域連携カンファレンス	症例で学ぶ緩和ケア地域連携	第一泌尿器科部長 神原 常仁 他	52
令和5年8月9日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	8
令和5年9月2日	第13回がんの市民公開講座	緩和ケアあれこれ	消化器内科副部長 新井 由季	25
令和5年9月14日	那須地区医療連携懇話会	「地域医療支援病院」としての当科の役割 小児アトピー性皮膚炎治療における最近のトピックス	第一小児科部長 石井 純平 獨協医科大学 小児科学主任教授 吉原 重美 先生	50
令和5年9月20日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	8
令和5年10月7日	第14回がんの市民公開講座	乳がん診察の現状	副院長兼第一外科部長 田村 光	25
令和5年10月18日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和5年10月22日	第2回「がん講演会」のおはなし会	乳がん診察の現状	副院長兼第一外科部長 田村 光	50
令和5年10月26日	大田原市健康セミナー	地域の発展は医療の発展と共に	病院長 井上 晃男	200
令和5年12月18日	第7回県北医療圏緩和ケア地域連携カンファレンス	症例で学ぶ緩和ケア地域連携	第二産婦人科部長 水口 雄貴 他	31
令和5年12月20日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和5年12月21日	那須地区医療連携セミナー	当院の睡眠剤・安定剤の使用状況 睡眠障害と循環器疾患	前任薬剤課長 堀中 大輔 獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科准教授 有川 拓男 先生	41
令和6年1月17日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和6年2月21日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和6年2月29日	病診連携懇談会	当院における救護活動について	社会課長 井戸沼 由美子	49
令和6年3月13日	大田原内科懇話会	症例検討	放射線診断科部長 水沼 仁孝	9
令和6年3月15日	地域連携講演会	あなたの知らない漢方の世界 ～そもそも漢方薬って何？～	大田原中央クリニック 院長 八代 忍 先生	59

4

研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要（主な設備）
シミュレータールーム	26.87㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境
マイタウンホール	246.45㎡	プロジェクター、音響設備一式 エリア監視カメラ
多目的ホール	164.363㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
カンファレンス室	51.67㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室1	21.58㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室2	20.94㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室3	24.38㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室4	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室5	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室6	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
会議室7	23.50㎡	電子カルテ用パソコン、 インターネット接続環境 テレビモニター移動式
オペレーター訓練室	47.00㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境
図書室	51.79㎡	コピー機1台、ファクシミリ1台 パソコン5台（電子カルテ用パソコン含） インターネット接続環境 移動スライド式書架
研修医室	21.27㎡	電子カルテ用パソコン インターネット接続環境

救命救急センター	466.86㎡	脳波計、誘発電位検査装置、 コードレス移動型X線装置、代謝モニター 手術用顕微鏡、デジタルシネ装置、 pEEGモニター、搬送用人工呼吸器、 超音波診断装置、 セントラルモニターシステム デジタル脳波計、除細動器など
----------	---------	---

(第16号様式) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 井上 晃男
管理担当者氏名	事務部長 唐橋 正弘

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	1年単位でファイルし倉庫保管
	病棟日誌	各病棟	1年単位でファイルし倉庫保管
	処方箋	薬剤部	各病棟1日分を纏め、薬剤部で月単位で倉庫保管
	手術記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	看護記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	検査所見記録	診療支援課	電子カルテ内保管
	エックス線写真	放射線科	フィルムレス、サーバー内保管
	紹介状	診療支援課	スキャンにて電子カルテ内保管 原本は1日単位で纏め倉庫に保管
	患者退院に関わる入院期間中の診療経過の要約	診療支援課	電子カルテ内保管
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室	/
	救急医療の提供の実績	医事課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	
	閲覧実績	診療支援課	
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(第17号様式) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	地域医療連携室 課長 鈴木 道男 診療支援課 課長 高橋 美千夫
閲覧担当者氏名	地域医療連携室 課長 鈴木 道男
閲覧の求めに応じる場所	患者サポートセンター内 相談室
<p>閲覧の手続の概要</p> <p>閲覧を希望申し出⇒</p> <p>① 地域医療福祉連携課 *閲覧可能である職種であることを確認 *閲覧範囲と目的を確認 *閲覧希望日の確認</p> <p>② 地域医療福祉連携課内閲覧担当者は、閲覧書類管理部門長に報告、必要書類を準備</p> <p>③ 閲覧当日、本人確認の上「患者サポートセンター内 相談室」に案内、閲覧</p> <p>④ 閲覧終了後、閲覧実施記録を残す</p>	

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

(第18号様式) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回	
委員会における議論の概要		
<p>○令和5年度第1回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和5年4月18日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和5年度第2回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和5年7月18日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和5年度第3回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和5年10月17日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p> <p>○令和5年度第4回那須赤十字病院地域医療支援連絡会 日時：令和6年1月30日（火）19時00分～ 場所：那須赤十字病院 マイタウンホール 出席者：院外委員 院内委員 事務局</p>		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

議事録

表 題	令和5年度第1回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会	管理番号	栃那病携第17号		
		作成者	地域医療連携室 高橋 瑞季		
		承認	審査	担当	
		/		/	

開催日時	2023年4月18日(火)19:00~20:00	次回日時	2023年7月18日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 磯 勝彦、渡辺 晃紀、松本 通尚、亀田 康博、木村 和夫、渡辺 鉄夫、赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、白石 悟、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、河本 俊介、唐橋 正弘 福島 史哉、林 堅二、宮城 徳人、井上 文子 鈴木 道男、青木 哲也、秋元 利匡、前澤 範好、高橋 瑞季、阿部 明日香、吉澤 紋子</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換（配付資料参照）		
配布資料 その他	ppt スライド（会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告） 令和4年度那須地区夜間急患診療所利用者数、逆紹介案内、逆紹介に関するアンケート		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>ー開会挨拶ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんこんばんは。定刻になりましたので、令和5年第1回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を開催したいと思います。本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本日司会進行を務めます地域医療連携室の青木です。宜しく願いいたします。 <p>1. 挨拶</p> <p>那須赤十字病院 院長 井上 晃男</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんこんばんは。院長の井上です。日頃より当院の地域連携に多大なご支援とご協力を賜りましてありがとうございます。改めまして感謝申し上げます。私が赴任してからの1年間で、地域全体の医療の問題点、当院の様々な問題点を見てきました。利点を活かして弱点を克服すべく、地域の医療機関の皆様、行政の皆様と共に本年度も歩んでいきたいと思っております。院長としてのミッションは多々ありますが、その中でも1番は地域連携への取り組みで、何度も申し上げておりますが開業医訪問させていただいて「顔の見える連携」を目指しております。県北の医療機関の約半数は直接伺わせて頂きました。本来年末までに全医療機関伺いたかったのですが、スムーズに行かない部分もありまして遅れています。残りの医療機関へ早々に伺って、今年度も2度目の訪問をさせていただきたいと思っております。数多くある医療の問題点の中で1つ感じた事が、県北地域の住民の皆さまの健康意識・疾病の予防意識が低いと感じました。本年度目指したいのは、市民公開講座など市民の皆さまへの啓蒙活 	<p>青木</p> <p>井上</p>

<p>動を行いたいと思っております。5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げられます。問題は多々ありますが、当院の取り組みを後ほど阿久津副院長から説明させていただきます。マスク着用義務が無くなり世の中はコロナが収束した風潮になってますが、病院はそのような訳にはいきません。この地域医療支援連絡会も年に4回あり、昨年度の第1回は対面で行いましたがその後はWEB開催でした。私のミッション「顔の見える連携」に基づき、今後は感染対策を十二分にした上で対面で行いたいと思っております。また、このコロナ禍の3年間実施できなかった病診連携懇談会を、今年度は秋頃に開催したいと思っております。新年度になり、施設責任者として私なりに新しい事業を考えております。皆さまにはご協力ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。今年度も宜しくお願いいたします。</p>	
<p>2. 令和5年度地域医療支援連絡会委員紹介・就任挨拶 (ppt スライド、配付資料参照)</p>	
<p>2-① <u>那須赤十字病院 副院長 河本 俊介</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● はじめまして、河本です。獨協医科大学より4月1日付で赴任して参りました。那須脳神経外科病院で主に脳卒中診療を担って参りました。こちらでは地域医療の中でも脳卒中に重点を置いて充実を図っていきたいと考えております。宜しくお願いいたします。 	<p>河本</p>
<p>2-② <u>那須塩原市 健康増進課長 亀田 康博 様</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須塩原市健康増進課に4月から配属になりました亀田と申します。委員の皆さまには地域医療について多大なるご支援を頂き感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。 	<p>亀田</p>
<p>2-③ <u>県北健康福祉センター 所長兼地域保健部長 渡辺 晃紀 様</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から県北健康福祉センター所長となりました渡辺です。皆さまどうぞ宜しくお願い申し上げます。 	<p>渡辺</p>
<p>2-④ <u>那須町 保健福祉課長 木村 和夫 様</u></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須町保健福祉課長の木村と申します。4月1日付で保健福祉課長に就任しました。保健福祉分野は初めてですので、皆さまにはご指導ご鞭撻を頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。 	<p>木村</p>
<p>3. 地域医療支援病院としての現状報告 (ppt スライド、配布資料参照)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 資料のとおり説明。 	<p>青木</p>
<p>4. 今後の診療体制について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 5月8日以降の当院のコロナ病床についてご説明させていただきます。まず、行政の基本的な考え方をおさらいしたいと思います。5月8日以降入院は原則中等症Ⅰ以上、基礎疾患の状態が悪化した時というイメージだそうです。その場合、まずは自院での受け入れを検討するのが基本です。当院のような重点医療機関に対して行政が期待する役割は、重症者・中等症Ⅱ以上の受入の重点化を図ることが求められています。中等症Ⅱとは肺炎があり酸素吸入が必要な状態です。重点医療機関以外の医療機関やクラスター経験のある医療機関は、軽症中等症Ⅰを受入れるイメージで行政は考えているそうです。5月8日以降、県北で用意するベット数については第8波を参考にした数で、今後それを上回るのか大きく下回るのか予測はつきませんが、重症4床、中等症Ⅱ28床で総病床数は121床です。1月の第8波で県北の病床数は95床でした。当院で先週月曜日にコロナ本部会議を開きまして、先ほどお伝えした内容について考えまして、現在はフェース1で確保病床が6床、今日の時点で2床使用しております。当院の5月8日以降の病床確保については、平時6床、感染拡大時10床を予定しております。感染症病棟の6床を基本として、小児病棟の陰圧室2床と重症患者を受入れるためにGICU2床の合計10床を感染拡大時に使用する考えです。透析患者と妊婦、小児の受入についてです 	<p>阿久津</p>

が、透析患者1名、妊婦1名、小児2名を受入れる予定です。当院として1番大切だと考えているのが、この地域で唯一の3次救急病院ですので、当院の使命である3次救急医療との両立を図っていくことです。先ほどの病床数については、各医療機関が県へ提出する事になっております。それと共に県への要望を出すことができ、当院から提出した内容について報告します。まず診療した医療機関で入院を考えるとという事は、発熱している患者を断る医療機関が出てくるかもしれません。特に夜間・休日が問題だと思います。そのような事が無いように指導をしてほしいという事。次に、入院患者の重症度を考えて入院先への紹介をして欲しいという事です。当院の様な医療機関に軽症を入院させてしまうとベットがもったいないので、機能分担をするためにも今後地域内で話し合っていく必要があるという事。また、開業医の先生から紹介する際、各医療機関の空床をG-MISで把握できます。これまでの経験を踏まえると、オンタイムで空床データを入力する医療機関が少ない状況です。下手すると1ヶ月前のデータのままだになっている場合もあるため、機能するために各医療機関にタイムリーに入力するよう指導してほしいと思っています。あと、第8派の時に県内のベット稼働率が上がって、どこの医療機関にも受けてもらえないという事例がありました。救急隊から搬送困難の事例が沢山あったのでご存じだと思いますが、その時は岡本台病院や県立がんセンターがセーフティーネットとして引き受けてくださっていました。今後もその様なセーフティーネットが必要と考えます。以上の要望を出させて頂きました。当院としては、3次救急との両立を図りながらコロナの患者さんも診療していきたいと考えております。皆さまのご協力をお願い申し上げます。以上です。

5. コロナワクチン接種（5回目）について、行政の皆様からの報告

5-① 大田原市

- 本市のワクチン接種状況についてご報告させていただきます。4月15日現在で、対象者70,194名に対しオミクロン対応ワクチン接種者は36,157名で接種率が51.5%です。先ほど井上院長からお話があった通り5月7日まで接種を進めています。大田原市は集団接種と個別接種の2種類で行っておりますが、集団接種は2月18日で終了しておりますので、現在は個別に医療機関での接種を行っております。続きまして、5月8日から開始される令和5年春開始接種についてご報告いたします。対象となるのは1.2回接種を終えている65歳以上の方、及び5歳から64歳までの基礎疾患を有する方、医療機関や介護施設に従事する方で、接種券は4月26日に65歳以上で5回目接種を終えた方から順次発送しております。5歳から64歳までの基礎疾患等を有する方と医療従事者等につきましては、接種希望者から申請を頂くことになっておりますが、前回の接種時に大田原市へ申請している方はこちらから順次発送させて頂いております。接種体制は今までと同じく市内31医療機関及び市役所での集団接種を予定しております。集団接種の受付は5月1日からインターネット及びコールセンターで予約受付を開始します。ワクチン接種開始時期に関して、個別接種は5月8日以降に各医療機関でのスケジュールで実施していただきます。集団接種は5月13日から毎週土日に実施していきます。6月以降は調整中です。また、先ほど井上院長からもお話がありましたが、令和5年度は市民に対する健康づくりの授業を再開したいと考えております。那須赤十字病院にご協力頂いて、講演会などを展開していきたいと考えておりますので、何卒宜しくお願いいたします。以上です。

松本

5-② 那須塩原市

- 那須塩原市のワクチン接種状況をご報告いたします。まず、オミクロン株対応ワクチンです

亀田

が、4月17日現在で接種率は53%となっております。5歳から11歳の小児のオミクロン株対応ワクチンは3月23日に開始したばかりで、接種率は0.7%となっております。令和4年度秋接種は5月7日で終了いたします。引き続き5月8日から令和5年度春開始接種に入りますので、現在準備を進めている所です。対象者は大田原市松本課長がご発言した通りでございます。なお、接種券は本日第1便を発送いたしまして明日から受付開始いたします。また、市民の皆さまに広くお知らせするために、チラシを4月22日（土）の新聞折り込みを行い周知に努めたいと思っております。以上です。

5-③那須町

- 那須町の状況についてご報告させていただきます。まず5回目の接種状況ですが、4月15日時点で24,538人に対して、9099回で接種率は37.08%です。なお、オミクロン株対応ワクチンに関しては15,575回で接種率63.47%です。3月より5歳から11歳を対象にオミクロン株対応ワクチンの追加接種も行っております。次に本年度についてですが、特例接種期間が延長されたため集団接種を実施します。会場はゆめプラザ那須の1箇所です。具体的には5月20日から6月末までの期間で65歳以上の高齢者、医療従事者、基礎疾患を有する方を対象に実施します。接種券は4月24日頃発送予定です。それ以外の方は9月から12月にかけて実施予定です。以上です。

木村

6. 令和4年度那須地区夜間急患診療所利用者数

- 令和4年度における那須地区夜間急患診療所の利用者数でございます。項目の欄になりますが、上から利用人数、診療科別、年齢別、住所別、二次救急病院紹介数でまとめてあります。令和4年度の利用者数は1,019人でありました。表の右側に令和3年度の実績を記載してございますが、前年度の1,068人と比較しますと49人減となっておりますが、新型コロナウイルス感染症対策の影響により令和元年度の3,637人に対しては令和2年度が1,139人、令和3年度が1068人減となっており、ここ3ヶ年度はコロナ禍前の3割程度でありました。次に住所別ですが、大田原市が381人で全体の37.4%、那須塩原市が474人で46.5%、那須町が48人で4.7%でした。以上です。

赤羽根

7. 逆紹介に関するアンケート実施について

- 現在、厚労省より外来機能の明確化とかかりつけ医推奨の方針から、当院でもかかりつけ医相談窓口を設置しており、現在院内の電子掲示板で周知しています。逆紹介に関するアンケートは開業医訪問させていただいた所から実施し、徐々に範囲を広めていきたいと考えております。この件に関しては、本日欠席の那須郡市医師会長の小沼先生と西那須野塩原地区会長の齋藤先生より事前に了承頂いている所ではございますが、本日まで参加頂いている医師会の皆さまよりご意見を頂きたいと思っております。いかがでしょうか。ご意見の程お願いいたします。
- 院長の井上です。この件については地域性もあると思いますが、急性期の治療が終了した方で、本来であればかかりつけの先生方にフォローしていただくべき患者さんも、当院で抱え込んでしまっている現状があります。長年当院に通院している患者さんに納得していただく事は難しいですが、国の方針として地域の先生方と我々急性期医療機関、慢性期・回復期医療機関がシームレスな連携を取っていく事が重要な議題となっております。今回このようなアンケート調査を取らせて頂き、先生方に逆紹介する際に参考にさせて頂ければと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。
- 黒磯那須地区の渡邊です。このアンケートにある「術後がん患者フォロー」については、緩

青木

井上

渡邊

<p>和ケアなのか、それとも 5 年経過したので経過フォローだけで良いのかによって違ってくると思います。その辺を分かりやすくして頂ければと思います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 申し訳ございません。あくまで安定した方のみで、緩和ケアを含む専門性の必要な患者さんをお願いするという事はございません。そのあたりが不十分なアンケートであったことを反省しております。患者さんにも誤解して頂きたくないのが、長年当院をかかりつけとしていた患者さんを先生方に丸投げするという事ではなく、日常の経過フォローはかかりつけ医でお願いし、半年から年 1 回は当院で検査をするのが原則とさせていただきます。緩和ケアは当院も得意としておりますし、熱心に緩和ケアに取り組んでいる開業医の先生方と連携させて頂く事もございますが、このアンケートはあくまでも安定した方を逆紹介する際に使用するものになります。 	井上
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須郡市医師会副会長の塚原です。このアンケートを見たときに、先ほど渡邊先生がおっしゃった、術後がん患者フォローとは何を診ればいいのか分かりませんでした。私は毎週水曜日に日赤に行っており、手術室で先生方とお話する機会がありますが、がんのフォローとなると緩和ケアの患者さんが多いのが現実だと思います。ですので、このアンケートに緩和ケアを入れるのも良いかと思います。ただ、緩和ケアは皆さんの協力が必要で、那須日赤の訪問看護や薬剤師の麻薬管理の情報を共有することも必要だと思います。ここでは逆紹介という形ですので、そこまで深く考える必要は無いと思いますが、ぜひそのような事も念頭に置いて頂ければ幸いです。 	塚原
<ul style="list-style-type: none"> ● 緩和ケアにご熱心な開業医の先生方もいらっしゃるもので、そのような先生方と協力し逆紹介も考えています。今回のアンケート調査は安定した方を対象にしておりますが、より専門性をもった緩和ケアの病診連携も考えております。その際は訪問看護や訪問薬剤師による内服指導等も含めて、先生方と協力していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。 	井上
<ul style="list-style-type: none"> ● 今頂いたご意見を真摯に受け止めて、改善しながらアンケート調査を行っていきたいと思います。準備出来次第アンケート開始させていただきますので、ご協力の程宜しく宜しくお願いいたします。 	青木
<p>8. その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートで事例報告がございましたので、ご説明させていただきます。2月11日(土)建国記念日でしたが、休日当番医だった原内科小児科より頂いた事例です。「患者さんは高齢者で頭部外傷が有り、那須日赤に受診希望の連絡をしましたが休日当番医を受診するよう勧められたそうです。自院では診ることが出来ない為、救急に連絡するよう伝えましたが、那須日赤で受入れてくれるか、休日もやっている外科・脳神経外科を紹介して欲しいとの事でした。患者さんのその後の事は不明です」といった内容でした。この件に関して当院で調査した結果、該当する患者さんはその後当院に来院し、受診後帰宅となっております。報告は以上です。貴重なご意見をありがとうございました。 	青木
<ul style="list-style-type: none"> ● 院長の井上です。最後の事例に関しまして、休日当番医を受診するように勧めたのはご本人からの話だと緊急性が低いと感じたからだと思われそうです。当院は県北唯一の 3 次救急で、交通外傷など生死を彷徨う方の最後の砦です。今回のようなケースはできるだけ休日当番医や 1 次・2 次救急で引き受けて頂きたいと思っております。何でも受けていると当院が破綻してしまいます。まずは、地域の先生方や 1 次 2 次救急を検討いただき、どうしても受け入れ先が見つからない場合は当院でお受けします。この様な事は今後も多々あ 	井上

議事録

<p>ると思いますが、できる限り休日当番医で受けていただければと思います。以上です。</p> <p>－閉会挨拶－</p> <ul style="list-style-type: none">● 以上を持ちまして、令和 5 年度第 1 回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を終了とさせていただきます。次回開催は 7 月 18 日（火）19 時からを予定しております。開催方法を検討し、議事録と共に案内を送付させていただきます。本日はありがとうございました。（散会） <p style="text-align: right;">以上</p>	青木
---	----

議事録

表 題	令和5年度第2回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会(WEB)	管理番号	栃那病携第38号		
		作成者	地域医療連携室 高橋 瑞季		
		承認	審査	担当	

開催日時	2023年7月18日(火)19:00~20:00	次回日時	2023年10月17日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 高根沢 英二、磯 勝彦、渡辺 晃紀、松本 通尚、亀田 康博、木村 和夫、永山 君春、 赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、白石 悟、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、河本 俊介、唐橋 正弘 福島 史哉、林 堅二、宮城 徳人、 鈴木 道男、青木 哲也、秋元 利匡、高橋 瑞季</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換(配付資料参照)		
配布資料	ppt スライド(会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告)		
その他	那須赤十字病院地域医療支援連絡会規約		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>ー開会挨拶ー</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんこんばんは。定刻になりましたので、令和5年第2回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を始めさせていただきます。司会進行を務めます秋元です。宜しく願いいたします。 <p>1. 挨拶</p> <p>那須赤十字病院 院長 井上 晃男</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんこんばんは。当院の地域支援連絡会委員の先生方、連休明けのお忙しい時間にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げます。去年の4月に院長に就任して1年経ち、院長としての1番のミッションである地域連携に力を入れている事は皆さま良くご理解頂けていると思います。着任早々、連携に関してまだまだ足り無い所があると感じており、それを改善すべく院長として独自の方策を取って参りました。まだまだ先生方にはご不満な点があると思いますが、私としてはこの1年で大きく進歩したと感じています。連携に対する私の理念が、職種を問わず医師、看護師、コメディカル、事務職員に浸透してきていると感じています。後ほどその実績についてスライドを使用して説明させていただきますが、引き続き努力していく所存です。顔の見える連携を目指して、地域の先生方の所へご挨拶に回らせて頂いております。那須郡市医師会の3地域は大体回りました。今は少し範囲を広げて、塩谷郡市を回らせて頂いております。今後は南那須地 	<p>秋元</p> <p>井上</p>

<p>区にも伺わせて頂きたいと思っております。ご迷惑かと思いますが、その際は宜しくお願ひ致します。これは地域全体の問題ですが、医療体制がまだまだ脆弱です。脆弱な体制の中、地域の医療機関と関係者が一丸となって住民の健康を守っていきたくと思っておりますので、今後とも宜しくお願ひいたします。</p>	
<p>2. 委員紹介</p>	
<p>那須歯科医師会 会長 高根沢 英二 様</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 皆さんこんばんは。6月から那須歯科医師会の会長となりました高根沢英二と申します。大田原市の県北体育館の近くでみはら歯科医院を開業しております。どうぞ宜しくお願ひいたします。 	<p>高根沢</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 前歯科医師会会長の磯先生も、引き続き本会にご出席頂けることをご報告申し上げます。 	<p>秋元</p>
<p>3. 地域医療支援病院としての現状報告 (ppt スライド、配布資料参照)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 資料のとおり説明。 	<p>青木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療連携室課長の鈴木と申します。当院は県北で唯一要件、紹介受診重点医療機関の要件が該当しておりまして、7月から紹介受診重点医療機関に認定されました。こちらは紹介の患者さんを主に診療しながら、経過が落ち着いている患者さんは地域の先生方に逆紹介する制度です。県北で紹介受診重点医療機関に認定されているのは当院が唯一です。続きまして、組織機能図に関して説明申し上げます。令和4年度まで地域医療福祉連携課は事務部に所属して活動しておりました。今年度より院長直轄となり業務を行っております。連携室で紹介の患者さんを積極的に受けるよう検討しています。この様な形で令和5年度以降は、患者さんをお断りしない事に重点を置きまして、日々連携を行っている次第でございます。以上です。 	<p>鈴木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの説明に関して私より追加をさせていただきます。今まで連携室を通しての救急患者受入れに関してお断りするケースが多く、連携に対する意識の低さを感じたため、今年度より連携室を院長直轄の組織にして、連携室の事務職員の声は院長の声であるという事を浸透させて、連携室の職員に逆らう事は院長に逆らう事であると、半ばパワハラに近いような対策を取ってきました。そのおかげで4月5月6月にお断りする件数が減りまして、受諾率が95%を越えました。去年の12月辺りは70%台でした。それが急速に伸びてきて、今年度に入って95%を越えた事は大きな成果だと思っております。職員一人一人が連携に対する意識を高めてくれた成果だと思っております。次に、紹介受診重点医療機関についてですが、実は地域支援病院も当院が県北唯一です。国際医療福祉大学病院と菅間記念病院は地域支援病院に認定されていません。この状況で当院が地域支援病院から外れてしまうと県北が非常に大変なことになると思います。紹介受診重点医療機関の認定を受けられないと、地域支援病院から外されてしまうかもしれません。何とか7月から認定を受けることができ、紹介受診重点医療機関として診療できることとなりました。この紹介受診重点医療機関のコンセプトの1つとして、医療資源を十分に活用し外来診療を行う事が挙げられています。診察のみ、処方のみ患者さんを減らさなければなりません。地域柄もありますが、当院をかかりつけにしている方の比率が全国の赤十字病院の中でも多いです。地域の先生方と協力して、当院での治療・検査が必要な時に紹介していただき、落ち着いたら逆紹介を積極的に行っていかなければなりません。しかし患者さんからしてみれば、見捨てられてしまった気持ち、先生方からみれば患者さんを丸投げされたように感じてしまうかもしれません。それだけは払拭しなければなりません。何かあったときはかかりつけの先生に相談し、必要に応じて当院を紹介していただく事は患 	<p>井上</p>

<p>者さんにとって大きなメリットになります。患者さん達にこのような地域連携の仕組みを、理解していただけるよう啓蒙していく必要があると思っております。引き続き委員の皆さまにはご理解ご協力の程、お願い申し上げます。</p>	
<p>4. アンケート結果について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート結果に対する議題を説明させていただきます。今回、西那須野塩原地区医師会から次のご意見がございました。患者紹介する際、電話にて問い合わせをした時に音声案内になるのはいかがなものか。というご意見がございました。これまで患者さんから「電話がなかなか繋がらない。繋がっても内容を伝えることでより時間がかかってしまう」といった苦情が多くあり、対応できる職員の人数も限られているという現状がありました。そのような現状から、今年度より音声案内を開始させていただきました。 	<p>鈴木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 音声案内の煩わしさを感じるのはごもっともだと思います。しかし、音声案内にした理由があります。1つは電話交換機が2台しか無いため、繋がるのに時間が掛かってしまいます。電話がずっと繋がらないのと、音声案内でもすぐに繋がるのを考えると、すぐ繋がった方が患者さんは安心すると思います。平日の日中は地域連携室が繋がりますが、休日夜間の電話で問題なのは、音声案内を最後まで聞かないと受付に繋がらないという事です。これに関しては対応策を検討しております。これが改善すれば、先生方の負担も軽減されると思います。大学病院も含めて急性期病院のほとんどが音声案内を導入しております。何卒ご理解頂き、先生方のご負担にならないように改善していければと思っております。 	<p>井上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● －閉会挨拶－ ● 次回開催は10月17日（火）19時からを予定しております。開催時期が近くなりましたら、案内を送付させていただきますので引き続きご協力をお願い申し上げます。以上を持ちまして、令和5年度第2回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。 	<p>秋元</p>
<p>(散会)</p>	<p>以上</p>

議事録

表 題	令和5年度第3回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会(WEB)	管理番号	栃那病携第46号		
		作成者	地域医療連携室 高橋 瑞季		
		承認	審査	担当	

開催日時	2023年10月17日(火)19:00~20:00	次回日時	2024年1月16日(火)19:00 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 高根沢 英二、磯 勝彦、渡辺 晃紀、松本 通尚、亀田 康博、木村 和夫、永山 君春、 赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、白石 悟、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、河本 俊介、唐橋 正弘 菊池 範江、福島 史哉、林 堅二、宮城 徳人、人見 優子 鈴木 道男、青木 哲也、秋元 利匡、高橋 瑞季</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換（配付資料参照）		
配布資料 その他	ppt スライド（会次第、会員名簿、地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告、病院機能評価の受審について）		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>－開会挨拶－</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんこんばんは。定刻になりましたので、令和5年第3回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を開会いたします。本日進行を務めます地域医療連携室の秋元と申します。宜しくお願いたします。本日の出席状況についてご報告いたします。院内委員からは第二歯科口腔外科部長の宮城先生に代理出席して頂いております。院外委員につきましては、会長の小沼先生から欠席のご連絡を頂いていることと、那須地区消防本部の警防課長永山様に代理出席頂いております。ここで2点ほどご報告させていただきます。以前配布しました資料の中でスライドが2枚追加となっております。また、最後のページにある次回の地域支援連絡会の日程について、1月17日となっておりますが、1月16日に訂正させていただきます。宜しくお願いたします。 <p>1. 挨拶</p> <p>那須赤十字病院 院長 井上 晃男</p> <p>委員の皆様こんばんは。日頃より当院の連携に対して多大なるご支援、ご理解を頂きありがとうございます。改めて御礼申し上げます。地域支援連絡会も3回目となります。ずっとWEBで行って参りましたが、そろそろ対面で行いたいと考えております。以前お話ししましたが、今年の4月より連携室を事務部直下から院長直下の組織としました。この様な形</p>	<p>秋元</p> <p>井上</p>

<p>で地域連携を強くする試みを行っております。私自身が地域連携に力を注いでおりまして、「顔の見える連携」という事で地域の先生方のもとへご挨拶に伺わせていただいております。那須郡市医師会 3 市町の医療機関の先生方はほぼ全て訪問させていただきました。現在は範囲を広げて、塩谷郡市・南那須地区医師会の先生方に訪問を始めた所です。これから現況報告いたしますが、顔の見える連携の成果で大変紹介患者さんが増えました。一時期の倍近くの紹介件数となっております。逆紹介件数も増えております。私が赴任してある程度の成果を上げられていると自負しております。まだまだ至らない点もありますが、何かございましたら地域連携室にご連絡頂ければ、必ず私の耳に入ります。不備な点は即刻改善すべく努力いたします。これからも当院へのご支援ご理解を引き続きお願いいたします。本日は宜しく願います。</p>	
<p>2. 地域医療支援病院としての現状報告・病院機能評価の受審について (ppt スライド、配布資料参照)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 資料のとおり説明。 	青木・鈴木
<p>3. アンケート結果について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 今回のアンケートについては、特段ご意見が無かった事をご報告いたします。 	秋元
<p>4. その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 本日まで出席頂いている皆さまから、当院との連携や気になることなど、一言ずつ順番にお願いできればと思います。次第にある院外委員の順番通りお願いいたします。 	鈴木
<ul style="list-style-type: none"> ● 皆さまこんばんは。塚原です。常日頃無理難題を押しつけてしまい、申し訳ないと思っております。井上先生が院長になってから、連携の取り方が良くなっていると肌で感じております。無理難題を押しつけても、快く受入れて頂けることが多く感謝しております。今後とも宜しく願います。 	塚原
<ul style="list-style-type: none"> ● 車田です。いつもお世話になっております。私からは特にございません。 	車田
<ul style="list-style-type: none"> ● いつもお世話になっております。私からは特にございません。西那須野地区医師会にもこの会が開催されるにあたり、ご意見等あるか確認しましたが特にないとこの事でした。今後とも宜しく願います。 	齋藤
<ul style="list-style-type: none"> ● 院長の井上です。ご意見を頂く際、地域支援連絡会に関するご要望等もお聞きしたいと思しますので宜しく願います。 	井上
<ul style="list-style-type: none"> ● 日赤の先生方には大変お世話になっております。先ほど塚原先生からあったように、ここ 1.2 年、紹介する際お願いしやすくなったと感じます。受入れについても、大体の患者さんは受入れて頂いて大変助かっております。以上です。 	渡邊(敏)
<ul style="list-style-type: none"> ● いつも大変な症例を受けて頂きとても助かっております。これからも宜しく願います。支援連絡会の案内が郡市医師会に送られてましたが、クリニックに直接送付していただけると助かります。 	村井
<ul style="list-style-type: none"> ● お世話になっております。いつも連携室に電話すると対応が良く助かっております。これからも宜しく願います。 	上野
<ul style="list-style-type: none"> ● こんばんは。お世話になっております。歯科の場合は 1 日で急激に腫れてしまう症例が多く、その際に快く引き受けて頂いて感謝しております。事務連絡になりますが、歯科医師会長宛てなのか、会員に周知するものかが不明な時があるので、分かるようにして頂けると助かります。宜しく願います。 	高根沢
<ul style="list-style-type: none"> ● 高根沢先生に会長を引き継ぎましたが、大田原と那須塩原間での情報共有が出来ていな 	磯

<p>い部分があったので、井上院長や鈴木課長にお願いして引き続き出席させていただきますので、宜しくお願いいたします。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● いつもお世話になっております。現在、県で保健医療計画を各種策定しておりまして、それぞれの医療機関の機能や役割を意識しながらの連携が大切になってくると思います。また、医師の働き方改革にも対応しながら地域への役割を果たすことが要求されると思いますので、ご苦勞が多いと思いますが宜しくお願いいたします。 	渡辺(晃)
<ul style="list-style-type: none"> ● 各市町でコロナウイルスワクチンの秋接種を開始しております。那須日赤の皆様をはじめ、大田原地区医師会の皆様にご協力いただきながら順調に進めています。現状ワクチンの供給不足が懸念されていますが、国からの情報を得て住民のワクチン接種に努めて参りたいと思います。今後も連絡会を通して皆様と情報共有して地域支援に努めたいと思います。宜しくお願いいたします。 	松本
<ul style="list-style-type: none"> ● 本日ご参加の皆様には、日頃から地域医療にご尽力いただき感謝申し上げます。特に意見はございません。今後とも宜しくお願いいたします。 	亀田
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須赤十字病院の皆様、医師会の皆様には日頃より大変お世話になっております。私 4月からこの会に参加して 3 回目になりますが、紹介率・逆紹介率が上がっていることがよく分かりました。今後とも情報提供宜しくお願いいたします。コロナ対策をはじめ、ご協力賜りたく、宜しくお願い申し上げます。 	木村
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須日赤の先生方、職員の皆様、地域の先生方には日頃より救急業務をはじめ、消防業務全般にご理解ご協力を頂いていることを、この場をお借りして御礼申し上げます。今回の資料にもありますように、今年度の救急搬送についてかなりの高い率で受入れいただいております。今後とも引き続き地域医療のため、救急受入れ率を高いペースで保っていただけるようお願い申し上げます。 	永山
<ul style="list-style-type: none"> ● 那須赤十字病院の皆様、那須郡市医師会の皆様、委員の皆様には常日頃よりお世話になり、ありがとうございます。夜間急患診療所の運営に関しましても、大変お世話になり感謝申し上げます。引き続き宜しくお願い申し上げます。 	赤羽根
<ul style="list-style-type: none"> ● 塚原です。夜間診療所にライトを付けて頂きました。井上先生ありがとうございます。あと処方に関してのお願いです。紹介した患者さんについて、我々が処方しているものと全く同じ薬や似たような薬が日赤で処方されてくる事があります。我々が処方している薬をよく確認していただきたいです。大変お忙しいと思いますが、宜しくお願いいたします。 	塚原
<ul style="list-style-type: none"> ● 院内からの意見等はございませんので、私からは以上とさせていただきます。皆様ご意見ありがとうございました。 	鈴木
<p>－閉会挨拶－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 次回開催は令和 6 年 1 月 16 日（火）19 時からです。今回は対面での開催を予定しておりますので、引き続き皆様のご協力をいただきたいと思います。以上を持ちまして、令和 5 年度第 3 回那須赤十字病院地域医療支援連絡会を閉会いたします。皆様お忙しい所ありがとうございました。 	秋元
<p>(散会)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

議事録

表 題	令和5年度第4回那須赤十字病院 地域医療支援連絡会(現地開催)	管理番号	栃那病携第46号		
		作成者	地域医療連携室 青木哲也 (2/6作成)		
		承認	審査	担当	
		/		/	

開催日時	2024年1月30日(火)19:00~20:20	次回日時	2024年4月 予定
開催場所	那須赤十字病院 マイタウンホール	次回場所	那須赤十字病院 マイタウンホール
出席者	<p>【院外】</p> <p>小沼 一郎、塚原 純雄、車田 宏之、齋藤 仁、渡邊 敏郎、村井 成之、上野 顕 高根沢 英二、磯 勝彦、渡辺 晃紀、松本 通尚、亀田 康博、木村 和夫、永山 君春、 赤羽根 泰啓</p> <p>【院内】</p> <p>井上 晃男、白石 悟、阿久津 郁夫、佐藤 隆、田村 光、河本 俊介、唐橋 正弘 渡邊 信代、福島 史哉、林 堅二、宮城 徳人、中野 繁明、中丸 朗、刈生田 浩一 高木 英昭、吉成 美津子、人見 優子、藤田 明美、高久 由美子 鈴木 道男、青木 哲也、伊藤 健一、前澤 範好、高橋 瑞季、松本 華枝、大島 千代美</p> <p style="text-align: right;">赤：欠席 青：代理</p>		
議題	意見交換(配付資料参照)		
配布資料 その他	会次第、会員名簿、席次表、ppt スライド(地域医療支援病院としての現況報告、アンケート結果報告)		
配布先	出席者全員		

進行内容	発言者 (敬称略)
<p>ー1. 開会挨拶ー</p> <p>・皆さんこんばんは。本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。開会前に配付資料のご確認をお願い致します。まず、①次第、②会員名簿一覧、③本会 Ppt 資料となっております。不足や不備等ございましたら当院の職員までお声かけ下さいますようよろしくお願い致します。また、本日駐車券をお持ちになられており無料化されていない方がおられましたら併せてお声かけ下さいますよう宜しくお願い致します。最後になりますが、帰りの際出入り口利用ですが正面玄関が閉鎖されてしまいますので、夜間救急入口、防災センター前の入口をご利用下さい。お荷物等については壁際の机をご利用下さい。それでは定刻となりましたので、令和5年度第4回地域医療支援連絡会を開会致します。本日、司会を務めさせていただきます地域医療連携室の青木と申します。宜しくお願い致します。本日の出席状況については事前に配付してあります別紙の会員名簿一覧をご参照下さい。</p> <p>ー2. 挨拶ー</p> <p>2-①那須赤十字病院 院長 井上 晃男</p> <p>・委員の皆様方こんばんは。本日はお忙しい中おいで下さいまして誠にありがとうございます。年4回の地域医療支援連絡会を開催してきましたが、コロナ禍という状況のため、ハイブリット・</p>	<p>青木</p> <p>井上</p>

WEB での開催で中々対面での開催が行われなかった状況でしたが、約 2 年ぶりの対面開催ということで、本日皆様の顔が見える事が大変うれしく思います。私は一昨年前に赴任して参りましたが、院内だけでは気づけない院外から見ていたから分かる不十分な点を多々感じております。そのためのミッションとして、①医師確保、(県央と比較して地域全体として医師不足)、②地域住民への啓蒙活動、開業医の皆様との顔の見える地域連携(開業医訪問)を努め、引き続き推進していく次第でございます。この 2 年間の成果については本会でご報告させていただきますのでご意見等宜しくお願い致します。また、連携の重要性を更に強化するため、昨年度より地域医療連携室を院長直下の組織とし、現場の声を院長に直接報告し検討していく形の強い連携を進めて参りました。まだまだ不十分な点はありますが、今後も努力を継続して参りますので引き続き宜しくお願い致します。併せて、今年度は 4 年ぶりに 2 月 29 に日病診連携懇談会を行う事と致しましたのでご出席のほど宜しくお願い致します。以上です。

2-②那須郡市医師会 会長 小沼 一郎 先生

・皆さんこんばんは。本会については、日本医師会、県医師会、郡市医師会等々の会議が重なってしまい久しぶりの参加になります。最近では医療 DX の推進でマイナ保険証の問題、更にコロナが 5 類になり国が機能していないという状態の中で、今後どのようにしていくかという事。また、本会報告予定である「かかりつけ医」という診療報酬等の制度についての問題があり、郡市医師会含め開業医は外来縮小、有床診療所においては入院患者数が縮小され、大変厳しい状況になっており、郡市医師会内では産科有床診療所はございません。また、国は病床の調整、救急、回復期、慢性期の制度改定を地域に対して一律に実施している中でも頑張っていかなければならないと思っております。そのような会議等があり、本会に出席が難しいという事もございました。今回は「かかりつけ医」について問題提起致しましたので、皆様からも活発なご意見を宜しくお願い致します。

小沼

-3. 自己紹介-

- 各自自己紹介(院外)
- 各自自己紹介(院内)

-4. 地域医療支援病院としての現況報告-

4-1. 紹介件数 (令和 3 年度～令和 5 年度比較)

・紹介件数の 3 年間の比較のグラフになります。緑色の棒グラフが令和 5 年度を示しており、件数の増加を維持しております。新規報告分の、10 月から 12 月では約 1,600 件の紹介件数となっております。引き続き当院へご紹介下さいますよう今後とも何卒宜しくお願い致します。

青木

4-2. 逆紹介件数 (令和 3 年度～令和 5 年度比較)

・逆紹介件数の報告になります。例年に比べて令和 5 年度は大幅に増加している状況です。今年度になってからは 1,000 件を超える状況が続いております。今後も更に逆紹介件数を増やしていこうと考えております。皆様のご理解ご協力に対して大変感謝しております。

4-3. 紹介率 (令和 4 年度～令和 5 年度比較)

・紹介率の年度比較になります。紹介件数と同様に大幅に向上している状況となっております。紹介率の目標達成値においても、継続して 65%を超えて約 90%となっております。引き続き向上を目指して、院内でも取り組みを継続していく次第でございます。

4-4. 逆紹介率 (令和 4 年度～令和 5 年度比較)

・逆紹介率のグラフになります。紹介件数と同様、前年度の割合を継続して上回っております。特に 12 月は 91.4%と高い数値となっております。逆紹介の目標達成値 40%についても継続して

超えている状況でございます。

4-5. 歯科口腔外科紹介件数（令和3年度～令和5年度比較）

・歯科口腔外科の紹介件数になります。令和5年度の緑色の棒線グラフのとおり、全体的に向上傾向となっている状況となっております。現在、歯科口腔外科医師も充足しておりますので、これまで以上にご紹介下さいますよう何卒宜しくお願い致します。

4-6. 歯科口腔外科逆紹介件数（令和3年度～令和5年度比較）

・歯科口腔外科の逆紹介件数の報告になります。先ほど説明致しました紹介件数と同様に増加の傾向が続いております。

4-7. 紹介医からの救急受入れ率及び依頼総件数（連携室）

・地域医療連携室で対応致しました救急依頼総件数と受け入れ率のグラフになります。新規報告分の10月から12月の依頼の総件数は100件から120件となっており、月平均では約110件となっております。受入れ率については、3ヶ月連続で98%の割合で推移している状況となっております。1月においては他の施設でもクラスターが多々発生しており、転院調整が困難になっている状況です。院内の病床においても、逼迫している状況になっており、病床稼働率は95%前後となっております。皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまいますが、引き続き関係者の皆様と連携を密にしながら検討していきたいと考えております。

4-8. 紹介医からの救急受入れ件数_年度比較（連携室）

・紹介医からの救急受入れ件数の3年度比較のグラフになります。10月から12月にかけては95件から117件となっており、月平均では約105件となっております。今年度になってからは継続して月に100件を超えている状況が続いております。

4-9. 紹介医からの救急受入れ比率_年度比較（連携室）

・地域医療連携室で対応致しました救急受入れ率のグラフになっております。10月から12月においては、連続して98%の受入れ率となっております。令和5年度の推移から、例年度に比べ大幅な向上が続いております。令和4年度の12月以降は90%以上を継続している状況となっております。今後も引き続き継続出来るよう取り組みを行って行く次第でございます。

4-10. 救急車受入れ件数・比率_令和元年～令和5年

・救急車受入れ件数、比率の年度比較になります。こちらは救命救急センターでの状況となっております。令和5年度になり受入れ件数、応需率は増加傾向にあります。今年度は更に月日が残っておりますので増加が見込まれます。また、来年度以降においても増加の継続が見込まれますのでご報告とさせていただきます。

4-11. 救急車受入れ件数・比率_年度比較

・救急車受入れ件数・比率の年度比較になります。赤色の棒線グラフが今年度の救急車応需率となっております。また、青い折れ線グラフが救急車受入れ件数となっております。グラフの通りとなりますが前年度に比べ大幅な増加傾向となっております。こちらも引き続き継続出来るよう院内で取り組みを行って参ります。現況報告は以上になります。

・追加での報告となります。冒頭でもご説明致しました「顔の見える連携」というものを推進して参りました。その成果がこのようなグラフに表われているとご理解いただければと思います。紹介件数、逆紹介件数共に増えておりますが、各医療機関を訪問した際には「紹介患者は絶対にお断りをしないので紹介して下さい」と伝えると同時に、当院で急性期が終了し当院の診療外来をしばらく受診した後に状態が安定した患者様は、慢性期の病院を含めて転院、或いは「かかりつけ」の地域の開業医の先生方へ逆紹介の形で依頼し、受診をしていただくという「かかりつけ医」

井上

の説明をしており、この後に説明する「かかりつけ医」について関連してくると思いますが、積極的をお願いしております。歯科医師会の方にもご報告となりますが、現時点で歯科口腔外科のは常勤医師が4人、来年度から5人となります。全国赤十字病院、大規模病院の中でもかなり人員が充足している状況です。県北地域では歯科医師不足の状況であると思います。特にハイリスク患者等ケースが多々あると思います。当院では形成外科等とのコラボレーションを行う症例もあり、ハイリスク患者において対応が可能ですので、改めてご紹介のほど宜しくお願い致します。また、救急においては①開業医から地域連携室を介して紹介され救急受入れする場合があります。赴任前は受入れ率70%台、昨年度平均82%、今年度の体制変更後では98%まで向上しており分母が増加しております。分母増加・割合増加という結果から、受入れ総数が大幅に向上しているという事になります。令和6年1月分のデータはまだ示しておりませんが、先ほどのスライドの説明時に少しありましたが、病床がほぼ満床になっております。病床稼働率95%、一時的には97%となりました。併せて、COVID-19増加のため入院制限をせざるを得ない状況が続いてきており、物理的に受け入れが難しいケースが増えてきております。そのため残念ではありますが、1月においてはお断りするケースが増加してきております。先生方には現状での当院、他院の状況を鑑みてご容赦願いたいと思います。その中でも何とか当院ではお受入れ出来るように工夫して参りますので、ご相談いただければと思います。以上です。

4-12. 令和5年7月1日「紹介受診重点医療機関」に認定

- ・当院は昨年7月1日「紹介受診重点医療機関」に認定されました。県内では12医療機関が認定され、県北では唯一当院が担当させて頂いております。制度としては人口減少、高齢化及び外来医療の高度化が進み、外来医療については患者の医療機関選択に当たり、外来機能の情報が十分得られず、全国的に患者にいわゆる大病院志向もあり、外来患者が一部の医療機関に集中し、待ち時間や勤務医の外来負担等の課題が生じています。これら課題を解決するためには、かかりつけ医機能の強化とともに、外来機能の明確化・連携を進めていく必要があります。その流れの中、紹介受診重点医療機関については、外来機能の明確化・連携を強化し患者の流れの円滑化を図るため、医療資源を重点的に活用する機能として手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額医療機器・設備に着目して、紹介患者の外来を基本とする医療機関として認定され、当院では更に治療後は逆紹介を積極的に行っております。

鈴木

4-13. 入院診療、救急医療を中心とした体制を更に推進するため受付時間を30分短縮について

- ・入院診療、救急医療を中心とした体制を更に推進するため、受付時間を30分短縮する体制に変更させて頂きます。令和6年4月より現行の受付終了時間11:30を11:00とさせて頂く予定です。なお、11:00以降に予約のある場合はこの限りではありません。ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

4-14. 紹介患者の完全予約制導入の検討

- ・紹介患者の完全予約制の導入を検討しており、その報告でございます。当院は平成18年12月に地域医療支援病院を取得して以来、地域医療機関から当院で治療・検査が必要な患者さんをご紹介頂き、当院での治療後は再度各医療機関にお願いするという「二人主治医制」や「地域内における完結型医療」を推進してまいりました。しかし、当院の役割である「高度急性期医療機関」としての「入院診療」「救急医療」「手術」を中心とした体制を更に推進すること、また、患者さんの待ち時間の低減に努めるべく、第一段階として紹介受診の方は全ての科において完全予約制の導入を検討してまいります。ご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

4-15. 紹介患者専用ホットラインの導入について

・紹介患者専用ホットラインの導入についてになります。現在、病院代表電話においては自動音声案内を導入しておりますが、この度、医療機関からの紹介患者専用ホットラインを導入し、自動音声案内を経由せず、直接救命救急センター受付にて対応させていただきます。なお、運用開始日及び運用時間はスライドのとおりです。運用開始日は2月1日から、運用時間は病院閉庁時としており、平日16:50から翌8:30、第1・3土曜日12:30～翌8:30、第2・4・5土曜日、日曜日、祝日、年末年始、創立記念日となります。ホットラインの電話番号はスライドのとおり番号であり、詳しくは今後、案内文を通知させていただきます。
運用時間は病院閉庁時となりますので、開庁時はこれまでどおり地域医療連携室にご連絡下さい。また、ホットライン番号は医療機関専用になりますので、患者さんには口外しないようお願い致します。

4-16. 那須赤十字病院 地域がん診療連携拠点病院事業（がんの市民公開講座）

・当院は県北唯一の地域がん診療連携拠点病院として担当させていただいており、地上8階に緩和ケア病棟20床を設け、緩和ケアをいつでも提供できるチームでの体制を整え、地域におけるがん医療の充実及び地域連携の構築に邁進しているところでございます。今般、その事業のひとつでもある地域住民の方々を対象とした、第15回がんの市民公開講座を予定しております。講師には女優・タレントの原千晶さんをお招きし、自身のがんの経験を踏まえてお話を頂く予定です。こちらも順次通知させていただきます。

4-17. 現況報告まとめ

・7月1日認定「紹介受診重点医療機関」についてですが、先ほど小沼会長からご説明ありましたとおり、国は医療費削減等のため、様々な制度改定で医療機関の差別化を行っています。「紹介受診重点医療機関」についても制度・名称等が理解しづらいと思います。当院のような急性期病院の外来は、機能・医療機器・設備を最大限に利用した外来を実施するというあり方となり、診察のみ・処方のみでの外来受診の患者様には、減少させるといった内容となっております。後ほど説明する「かかりつけ医」という言葉の認識についての内容と関連しますが、まずは、「かかりつけ医」で診療後、急性期病院の対応が必要な患者を紹介していただき、外来診療していくという制度になります。そのために、外来の医療体制を変えさせていただき、外来の完全予約制の実施、ホットラインの導入となります。自動音声案内の不便さについては、以前の地域支援連絡会で意見がありましたが、医療安全の観点から考えて自動音声案内は必要であるため、中止したいと思うところはあるが現状として難しい状況となりますので、対策、配慮としてホットライン導入等を工夫させていただきました。最後に市民公開講座になりますが、冒頭でご説明した地域住民への啓蒙活動の一環ともなっております。ご案内していただければ幸いです。

井上

-5-1. 議題に関する事前アンケートについて①「かかりつけ医」という言葉の認識について-

・議題に関する事前アンケートにおいて質問がありましたので、ご報告させていただきます。1点目が「かかりつけ医」という言葉について、院長先生及び各診療部長の先生方の認識についてとなります。先程もスライドで申し上げましたとおり、当院は平成18年12月に地域医療支援病院を取得以降、地域医療機関から当院で治療・検査が必要な患者さんをご紹介頂き、当院での治療後は速やかに地域医療機関にお戻しし、二人主治医制にて地域完結型医療を進めてまいりました。地域住民の方々には「かかりつけ医」を持って頂くために医療施設相互間の機能分担及び業務の連携の重要性に理解を深めて頂くこと。また、医療提供体制の機能に応じて、医療を適切に受けて頂くよう進めております。

青木

・小沼会長から貴重なご意見を頂き、先日頂きました資料の「かかりつけ医」の概要と私見を読ま

井上

<p>せていただきました。小沼先生の言う通り「かかりつけ医」とは患者様から見た医師であり、医療者側から見て、「かかりつけ医」を決めるのはおかしいということは、そのとおりだと思います。これについても国が役割分担と称して機能分担を行っております。「かかりつけ医」への紹介は、以降の診療は当院ではないではなく、患者様に「かかりつけ医」を持っていただき、何かあればいつでも診療し定期受診等も行います。二人主治医制とは双方の医療機関に主治医が居て、一緒に診ていくというスタンスになります。開業医へ「丸投げ」と思われてしまう部分はありますが、そうではありません。急性期が終わり在宅に移行し地域の先生方をお願いした後も、何かありましたら当院で診療いたします。開業医の先生方においては何か不安な事(投薬調整等)がありましたら是非当院へご相談、また当院へお戻ししていただいても構いませんので宜しくお願い致します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。先ほど日赤が紹介受診重点医療機関であると説明されましたが、その対局にある言葉が「かかりつけ医」です。言い換えれば「病院勤務医」と「開業医」と称しても良いわけです。次に②のアンケートに回答していただきありがとうございます。(資料参照) 	<p>小沼</p>
<p>-5-2. 議題に関する事前アンケートについて②-</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・3次救急である貴院の1日あたりの外来患者数は何人でしょうか。→1日あたり約900名から950名。全診療費に対する外来患者の診療費の割合について。→約29%。外来患者のうち①貴院をかかりつけ医として受診する診察と処方みの患者の割合及び、②それら診療費の外来診療収入の割合について。→①は約22%~25%。②は約2% 	
<ul style="list-style-type: none"> ・井上先生に質問ですが1日あたりの外来患者数についてはかなりの負担ではないのでしょうか。 	<p>井上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・①は約22%~25%の患者様については協力して10%台まで減少させたいと考えております。 	<p>小沼</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・我々としても日赤には救急、重症等の患者を診療してもらいたいと思っております。今回のアンケートは京都医師会に似たアンケートです。3次救急医療機関で29%は多いのだと思います。アンケート結果(数値)からみても、①慢性期疾患の患者が日赤に受診し継続してしまうと、3次救急医療機関としての機能の維持が難しくなってしまうので、外来患者数減少のために努力をしていただきたい。②日赤にしか診療していない患者がいると思います。急性増悪した際に日赤に電話連絡したが、診療してくれず開業医への診療を勧められ受診、我々は患者さんのために診察をするが、結局、日赤へ紹介状(診療情報提供書)を記載したケースもあります。日赤を「かかりつけ医」とする患者がいるという事も認識され、それらの患者には責任を持っていただきたい。紹介状(診療情報提供書)なしでも診療していただくといったシステムを作っていただけると、患者さん、皆さん、我々のためにも良いかと思い今回注目しアンケートにて質問させていただきました。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。おっしゃるとおりだと思います。②の場合については当院の説明不足、例外はあるかと思いますが不信感を抱く原因でもあります。但し紹介患者を断る事は絶対に許しません。 	<p>井上</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。役割分担をしっかりと行い、患者さんのためになるように皆さんも我々もストレスなく診療出来る体制で、「かかりつけ医」というものが患者さんにとって幸せになり、且つ我々も外来患者が増加しお互いに良好な関係が保てるのではないかと思います。宜しくお願い致します。 	<p>小沼</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・この件に関しては十分に話し合いがされましたので私からの説明は省略させていただきます。 	<p>青木</p>
<p>-5-3. 議題に関する事前アンケートについて③-</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・3点目でございます。①気管内挿管が出来る救急救命士の割合は？②増加しているか？③増やす 	

<p>努力をしているのか？についてですが、こちらは那須地区消防本部の方からコメントを頂ければと思います。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・那須地区消防本部の永山です。宜しくお願い致します。①気管内挿管が出来る救急救命士の割合については、現在救命救急士として活動している人員の中で約 21.7%、15 名が気管挿管の認定救命士として活動している状況です。 	<p>永山</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・それに併せまして、②増加しているか？③増やす努力をしているのか？についてですが、認定救命士を取得するためには当院で手術を受けられる約 30 名以上の患者に対して気管挿管の実施を行わなければならないという内容となっております。この事業に関しては、平成 16 年から開始されており緊急手術を除く待期手術、合併症のない患者に対して行うのが基本にあります。その患者の協力のもと、我々指導医が挿管の認定を取得する救命士に対して、実施を行わせるといった事業となっております。根底にあるのは患者に対して不利益を与えてはいけないというところがございまして、コロナ禍という状況のため、この事業に関しましては現在出来てはおりません。状況が改善するまでもうしばらくお待ち下さいという回答になります。引き続き麻酔科部長とも協議を継続しながら努力させていただきます。何卒ご理解のほど宜しくお願い致します。 	<p>林</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。この件も提起させていただきましたが、21.7%という値は低いのではないですか。せっかくこの制度が出来て助かる命が助からないというのは問題だと思います。気管挿管実習は日赤のみで他医療機関では行えないのでしょうか。 	<p>小沼</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・塚原と申します。水曜日に日赤の麻酔科に来ており、私も救命士の指導をしておりますが、菅間記念病院でも実施しております。しかし、麻酔科の医師が 1 名しかおりませんので取得に年単位の期間を要しコロナ禍のため実施しておりません。日赤の月単位の期間と比較すると難しい状況となっております。日赤では麻酔科部長を初めとし、気管挿管実施の取り組みをよくやられておりました。現状では先ほど林先生が言われたとおりとなっております。現在では気管内挿管をせずに気道確保ができる専用のマスクがあります。こちらは気管内挿管を実施しない方でも行えます。救命士の方々は非常に熱心に取り組んでおりますので、我々もそれに答えてあげたいところですが、コロナ禍という状況のため実施出来ない状況です。 	<p>塚原</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。もう少し%が向上するように消防署、指導医の方には宜しくお願い致します。 	<p>小沼</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ご発言された皆様、貴重なご意見ありがとうございました。その他に皆様からご意見ありますでしょうか。 	<p>青木</p>
<p>(特になし)</p>	
<p>-6. 質疑応答・その他-</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・最後に質疑応答になりますが皆様からご意見あればお願い致します。 	<p>青木</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・副会長の塚原でございます。日赤の先生方にお礼の報告がございます。医師会の方でスポーツ委員会をやっておりますが、県北地域で開催される運動の大会の際に色々なスポーツ医の先生に対して依頼をし来ていただいております。11 月 23 日の大田原マラソンの際は天候が良く暑い日になっておりました。日赤からは井戸沼看護師長を中心としたメンバーでお手伝いをいただき大変助かりました。マラソン後には 70 名近くの参加者が脱水症状となっております倒れ込んでおりましたが、そのほとんどの処置等を行っていただきました。私が処置をする参加者は数名ほどとなり本当に大変助かりました。今年もお手伝いのほど宜しくお願い致します。最後に 12 月 3 日に那須町で開催された那須ランという 2~10 キロ 	<p>塚原</p>

<p>を親子達がマラソンをする大会がありました。その際のマラソン後に、気持ちが悪く脈が非常に乱れ改善しない症状のお子さんがおられました。休日であったため、どの医療機関も診てもらえず、日赤へ連絡をしたところ快く受入れて下さいました。今回も井上院長先生がおっしゃられているような「紹介は必ず受入れする」という事例がありましたので本当に助かりました。ありがとうございました。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 井戸沼看護師（課長）は私が部長を兼任しております医療社会事業の社会課という部署になります。主に院外活動になり、地域支援、地域振興、今回の能登半島地震のような災害対応等の総括を行う部署になります。今後も病院の立場で地域を支えていくというスタンスで積極的に取り組んで参りますので宜しくお願い致します。 	井上
<ul style="list-style-type: none"> 貴重なご意見を参考に今後も取り組みを行って行きますので宜しくお願い致します。その他に皆様からご意見ございますでしょうか。 	青木
<p>(特になし)</p>	
<p>－閉会挨拶－</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 他にご意見がなければ、次回開催の案内をさせていただきます。次回、令和6年度第1回の当連絡会は4月を予定しております。日程が決定次第、別途ご連絡させていただきます。また、医療関係者へのご連絡となります。冒頭で院長からも説明がありました通り、通知はさせていただいているところではございますが、2/29（木）18：30から勝田屋にて病診連携懇談会が開催されます。何卒宜しくお願い致します。引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。お出口は会場通路側の扉からになり、夜間救急出入り口となりますのでご利用下さい。本日の地域医療支援連絡会は以上で終了となります。皆様お忙しいところありがとうございました。 	青木
<p>(散会)</p>	
	以上

(第19号様式) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	総合案内、相談窓口、相談室、病棟面談室
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	医療相談：病棟・外来看護師、社会福祉士、 医事課未収担当者 健康相談：臨床心理士、担当看護師
患者相談件数	8,420件
患者相談の概要	
医療相談： 1,964件 (別紙参照) 健康相談・電話相談： 6,456件	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

医療社会事業年報

令和5年度分

1. 取扱い件数

ケースの区分		件数
年度実件数		2863
継続実件数		899
新規件数	入院	1309
	外来	655

2. 年度延人数

ケースの区分	件数
年度延人数	8083

3. 新規ケースの紹介経路

区分	件数
医師	80
看護師	894
リハビリ職	5
その他院内職員	240
本人	10
家族・親戚縁者	20
院外関係機関	522
近隣者・知人	8
医療チーム	140
ソーシャルワーカー	45
合計	1,964件

4. 介入の時期

区分	件数
受診前	103
外来	339
入院前	26
入院中	1309
その他	187

5. 社会的背景

区分	件数
独居	438
経済困窮	389
家族疎遠・身寄りなし	112
ハイリスク妊産婦	48
精神疾患	193
認知症	479
家庭内暴力・虐待	93
自殺企図	9
無保険	10
身元不明	3
ホームレス	0
外国人	14

6. 援助内容

区分	実件数	延件数
受診・受療	285	961
経済的問題	149	757
制度活用	642	2092
入院療養支援	25	65
退院支援	1049	8423
在宅療養・介護	116	295
医療者との関係	31	121
家族関係	90	429
日常生活	26	90
就労・就学	22	79
身元保証・権利擁護	113	687
死後対応	8	42
その他	22	33
合計	2,578件	14,074件

7. 援助方法

方法	件数	
面談	本人	657
	家族	798
	友人・知人	16
電話	本人	146
	家族	2308
	友人・知人	58
訪問	家庭	0
	その他	13
同行・同伴・代行	4	
連絡調整・院内	14650	
連絡調整・院外:面会	74	
連絡調整・院外:電話	11614	
連絡調整・院外:文書他 メール他	3619	
カンファレンス(院内職種のみ)	209	
カンファレンス(院外職種含む)	158	
合同カンファレンス(院内職種のみ)	35	
合同カンファレンス(院外職種含む)	112	

8. チーム医療

チーム名	症例数
退院支援チーム	65
認知症ケアチーム	0
患者サポートチーム	26
リエゾンチーム	0
緩和ケアチーム	28
虐待対応チーム	20
倫理コンサルテーションチーム	0
その他	1

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
評価を行った機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成26年2月 平成31年2月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ、広報誌の送付、病診連携のための外来診療予定表の送付 病診連携懇談会の開催、研修会の開催 等	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有
・ 退院調整部門の概要 退院支援看護師専従4名、MSW2名 介護保険新規申請、在宅療養を希望しているケースは退院支援看護師が担当し、転院や社会福祉的な介入が必要なケースはMSWが担当している。 病棟毎に毎週定例で行っているチームカンファレンスや退院前カンファレンスへの参加、患者家族との面談を行っている。	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	有
・ 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 脳卒中地域連携パス、大腿骨地域連携パス、廃用症候群地域連携パス、 がん地域連携パス ・ 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 各年3回のパス会議を開催	